



# ランチ セッション



## 聴覚障害学生支援に関する 実践事例コンテスト 2009



### 2階 一橋記念講堂前ロビーにて 12:00～14:00（担当者説明時間 12:30～13:45）

本シンポジウムでは、全国の大学が日頃実践している支援の取り組みを発表し、参加者の投票によって優れた取り組みを表彰するコンテスト企画を設けました。会場には、教職員・学生・支援者など12団体の応募者が力を入れて作成したポスター14点が並んでいます。また、PR・啓発グッズ部門には5団体からの応募があり、マニュアルなどを展示しております。

ぜひ、内容をご覧ください、「この取り組みは参考になる！」と思った発表に投票してください。

#### 投票方法

★みなさんの名札の中に投票用紙（2枚）が入っています。会場でポスターをご覧ください、これは良い！と思った発表2つに投票して下さい。投票箱は各ポスターの前に設置しています。

★本コンテストでは、組織の大きさや完成度ではなく、次のような観点から投票をお願いします。

- ・こんな取り組みを実現したかった！
- ・ぜひ真似したいアイデアだ！
- ・今後の発展が楽しい内容だ！
- ・日頃の努力が伝わってくる！



★発表いただいた各団体には、以下の賞を用意しています。

- ・ PEPNet-Japan 賞
- ・ 準 PEPNet-Japan 賞
- ・ アイディア賞
- ・ Good プレゼンテーション賞
- ・ PR・啓発グッズ部門賞
- ・ 奨励賞



参考になる  
取り組みに  
投票



投票用紙は1人2枚  
名札の中に  
入っています



※会場内の手話通訳者は  
緑色の腕章を付けています。

#### 参加団体

札幌学院大学バリアフリー委員会／札幌学院大学電子計算機センターサポートデスク／宮城教育大学しょうがい学生支援室／東北福祉大学障がい学生サポートチーム テイク☆テイク／森田貴之（群馬大学教育学部）／日本工業大学／千葉大学ノートテイク会／早稲田大学障がい学生支援室／日本社会事業大学障がい学生支援組織 CSSO／フェリス学院大学バリアフリー推進室／湘南工科大学／愛知教育大学情報保障学生団体「てくてく」／佛教大学／愛媛大学 CBP・バリアフリー推進室

※コンテスト会場では聴覚障害学生支援機器の展示も行っております。是非ご覧下さい。  
（FM 補聴器・デジタル補聴器・IPTalk 連係入力体験・等）





## 機器展示

### 補聴器・補聴援助システム

補聴援助システムとは、聴覚障害学生の「聞こえ」を援助するシステムで、周囲の雑音や残響音をできるだけ排除したり、音そのものを大きくして、聞きたい声をよりクリアに届けるよう手助けするシステムを指します。

今回の機器展示では、このうち大学などで一般的に用いられることの多い FM 補聴システムと磁気ループ、それから聴覚障害学生によく用いられている補聴器を紹介しています。

#### FM 補聴システム

FM補聴システムは、マイクと受信機のセットでシステムとなっています。ちょうどラジオ局とラジオ受信機のように、話し手がFMマイク(ラジオ局)を持ち、声を電波に乗せて流します。これを、聴覚障害学生が装着している小型の受信機(ラジオ受信機)で受け、鮮明な音声で聞き取る仕組みになっています。



マイクに入った音が直接補聴器に届けられる。

##### PHONAK ZoomLink

PHONAK 社製の FM 送受信機で、補聴援助システム専用割り当てられた周波数帯域に対応している。マイクの指向性を変えられるため、聞きたい音を選択的にひろえる点で特徴的。



PHONAK 社製  
送信機 ZoomLink (約 9 万円)  
受信機 MyLink (約 6 万 5 千円)

##### バナガイド



Panasonic 社製の FM 送受信機で、工事現場での無線通信など、汎用的に用いられる。受信側は、イヤホンを接続したり、M-Link などを使って補聴器に音を届けることができる。

Panasonic 社製  
送信機 RD-M650Z (約 5 万円)  
受信機 RD-660Z (約 3 万 5 千円)  
いずれも 6ch 切り替え可

#### 磁気ループ

マイクから入力された音声をループアンテナに送り、磁場を発生させるもので、聴覚障害者は補聴器の T チャンネルを使って聴取します。ループアンテナを広げれば、一度にたくさんの人に利用いただくことが可能です。



SONAR 社製  
小型磁気ループシステム HS-10C  
(約 20 万円)

持ち運びのできる小型製で、必要な時に敷設して利用することができる。

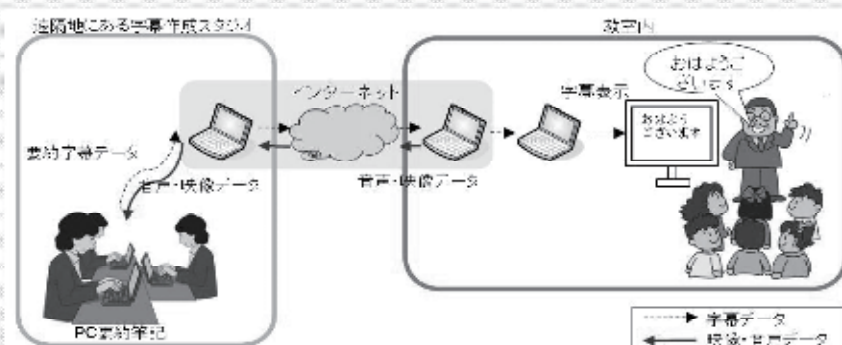
周囲の音を増幅して伝えるもので、アンプやマイク、スピーカーが内蔵されています。耳かけ型や耳穴型などいくつかのタイプがあり、個々の聞こえに合わせて増幅の仕方を調整することができます。

##### 耳かけ型補聴器





## 聴覚障害者のための遠隔パソコン要約筆記用ソフトウェア UDPCconnector

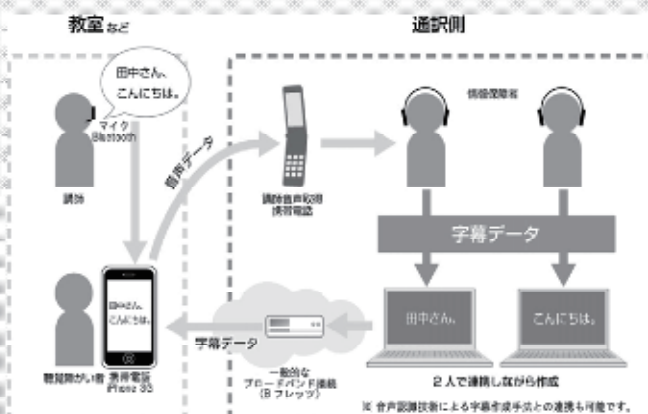


本システムは、教室の音声と映像をインターネット経由で遠隔地にいるパソコン要約筆記者グループに送り、そこで字幕化されたデータを元の教室の聴覚障害者に提示するシステムです。本システムによって、遠隔による講義保障を実現することが可能となります。

このシステムの中核をなすソフトウェアが『UDPCconnector』です。このソフトウェアはWindows上で稼働する通信用のソフトウェアで、映像・音声そして字幕データの通信を管理することができ、チャット等の付加的なコミュニケーション手段も搭載しています。

現在、研究過程で開発した本ソフトウェアを営利、非営利を問わず聴覚障害者支援を行っている団体に対して無償配布を行なっております。  
(現在のところ、有料のサーバソフトウェアが必要です。現在、無償のサーバソフトウェアに対応するための開発を行っています。)

## 携帯電話を活用した『モバイル型遠隔情報保障システム』



『モバイル型遠隔情報保障システム』は、携帯電話を通じて話者の音声や遠隔地にいる要約筆記者に送信し、そこで作成された字幕データを携帯電話で受信できるシステムです。教室や体育館などLAN環境のない場所や、パソコンを持ち込むことが難しい環境下でも要約筆記を利用できるようになります。

講師の声を情報保障者に伝えること、そして作成された文字情報を表示することの2つの役割を、1台の携帯電話（iPhone 3G）で担っていることが一つのポイントです。

また、パソコン要約筆記のみならず、音声認識技術との連携も可能です。

※筑波技術大学、群馬大学、東京大学の研究グループは、ソフトバンクモバイル株式会社やNPO法人 長野サマライズセンターと共同でこの試みを進めています。

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター准教授 三好茂樹

(お問い合わせはPEPNet-Japan事務局まで)







# 全体会



## 【パネルディスカッション】

### 「聴覚障害学生の主体性を引き出す環境作り

#### ～社会生活・就労を見据えたエンパワメント～

司 会： 白澤麻弓氏(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター)

パネリスト:「卒業後の社会生活・就労で求められるスキル

～就労・女性団体活動の経験を通して～

長野留美子氏(関東聴覚障害学生サポートセンター)

「誰もが学びやすい修学環境を～広島大学の取り組み～」

山本幹雄氏(広島大学 アクセシビリティセンター)

「大学のキャリア支援」

平尾智隆氏(愛媛大学 教育・学生支援機構)

「就労レディネスとエンパワメント」

石原保志氏(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター)

**討論の柱** ①聴覚障害者が社会生活・就労で必要となるスキル

②一般的なキャリアサポートとの関係性

③聴覚障害学生のエンパワメントプログラム

#### 企画趣旨

近年、高等教育機関では、聴覚障害学生支援の取り組みが広まってきており、大学での支援体制作りや情報保障支援の具体的な技術などのノウハウの蓄積もみられるようになった。

しかし、以前に比べより十分な教育を受けられる環境が整備されつつあるにも関わらず、コミュニケーションや人間関係などから、卒業後の社会生活、就労につまずいてしまうケースも少なくない。その問題には、聴覚障害者としてのニーズを社会にどう伝え、どう社会を動かしていくかという、アドボカシースキルが大きく関わっている。

そのためには、在学期間中に十分な教育環境を保障するだけでなく、卒業後も見据えた教育的な関わりが必要であるといえよう。聴覚障害学生が十分に社会で力を発揮できるまでに成長するためには、さらなる教育環境の整備が望まれる。

そこで今回は、「聴覚障害学生の主体性」をキーワードに、聴覚障害当事者、教育者などの立場から経験、事例をお話いただき、聴覚障害者として必要なスキル、また、それらを身につける・つけさせるために必要な教育環境を考えていきたい。聴覚障害学生は、卒業後に社会からどのようなスキルを要求され、また、それらをどう身につける・つけさせる必要があるか、特に教育的な側面から検討していくことが急務である。

また、フロアとのディスカッションも交えながら、聴覚障害学生のエンパワメントプログラムを構想していければと考える。





話題提供「卒業後の社会生活・就労で求められるスキル

～就労・女性団体活動の経験を通して～

関東聴覚障害学生サポートセンター 長野留美子氏

## 卒業後の社会生活・就労で求められるスキル ～就労・女性団体活動の経験を通して～

関東聴覚障害学生サポートセンター  
長野 留美子

1

## ◆履歴紹介

- ・先天性感音性高度難聴
- ・ろう学校幼稚部修了後、小学校から大学まで統合教育
- ・高校1年:関東聴覚障害学生懇談会に入会(高校生会員)
- ・明治学院大学入学後、関東聴覚で「講義保障」を求めて活動
- ・大学3年:「第15回全国聴覚障害学生の集い」実行委員長を務め、「聴覚障害学生サポートシステム構想の実現」を訴える(1995年)
- ・大学4年:日本特殊教育学会にて、サポートシステム構想の実現に向けて自主シンポジウム開催(1996年)
- ・大学卒業後、米国留学・就労・女性団体活動のかたわら、現在に至るまで関東聴覚障害学生サポートセンターにて活動

2

## ◆就労

サンクスステップ(株) <障がい者雇用促進研究所>  
総合人材サービス企業テンプホールディングス特例子会社

<入社理由>

- ・女性社長で、女性が結婚・出産後も働くことを応援する会社。
- ・障害者就労支援事業を展開する会社。

自分のキャリア形成が可能と考え入社(自己選択、自己決定)

<配属先>

- ・保険代理店業務(法人代理店)
- ・生保/損保関連の資格取得するも、顧客サービスが重視される職場での業務遂行には、多くの困難が伴った。

3

## ◆聴覚障害者の就労上の問題(職場適応)

- ①就労環境が整備されている職場は希少  
同僚と同じスタートラインに立つことは難しいのが現状。
- ②周囲の障害に対する理解不足  
一般の職場では、障害に起因する業務への制約の内容が理解されにくい。
- ③業務遂行の中での現実  
職場では皆自分の仕事で精一杯で、聴覚障害者へ配慮する余裕がなくなることが多い。

4

## ◆職業人としてのスキル形成上の困難

- ①同僚や上司の電話対応、クレーム対応等の業務上の会話の中で伝達される業務知識が身につかない。
- ②スキル向上のための研修受講上の情報保障問題。

- ・背景を知らない人から見れば、業務上の知識がないとみられる。
- ・業務範囲が狭まり、職業人としての自己実現が困難になる。
- ・上司や周囲の低い評価につながり、精神疾患や離職を招きやすくなる。

▶ 聴覚障害者の就労支援事業を会社に提案  
<2008年1月>

5

## ◆サンクスステップ手話キャンパス開設

「共に働く社会」に向けて、聴覚障がい者への理解促進のためにHP開設  
<2009年1月>



サンクスステップ手話キャンパスWEB



聴覚障がいの基礎知識



社内で使える手話表現

## ◆聴覚障がい者就労支援の取組み (サンクステンブ社)

### <事業内容>

- ・聴覚障がい者向け就労対策(PC講座、ビジネスマナー)
- ・テンブグループ派遣スタッフ向けの手話講習会事業
- ・ホームページ「手話キャンパス」の運営

### <社内での取組み>

- ・就労環境の改善(会議等でのPC要約筆記、手話講座)
- ・テンブグループ社会貢献活動の一環として、「チャレンジ・アスリート・サポート制度」を実施。従業員の競技活動と就労の両立を支援。

☆今後の課題＝収益面を含めた持続可能性の確保

7

## ◆社会生活(社会適応)

### Lifestyles of Deaf Women(ライフスタイルズオブデフウーマン)

20代-40代の聴覚障害女性たちのセルフ・アドボカシー・グループ



<2006年2月設立>

サイト: <http://rumineko2006.blog40.fc2.com/>

8

## ◆団体概要

### <設立目的>

聴覚障害女性の生活主体形成能力を育む場。女性の多様なライフステージ(就労・結婚・育児等)において、ワークライフバランスをとりながら、自分らしい生き方を創り出すことが目的。

### <主な活動>

- ①MLによる情報交換(仕事・家庭・育児・趣味等)
- ②自主勉強会・研修やメンバーの発意による企画(料理など)
- ③「聴覚障害女性」に関する米国の事例や英語文献の研究
- ④「ろう女性学」、「聴覚障害女性論」の発信

### <活動成果>

- ①活動報告書(小冊子)の刊行(年1回)
- ②スタッフの一人が、当団体での研究成果をもとに博士号取得

9

## ◆アサーティブネス・コミュニケーション・ワークショップ

★アサーティブネスとは・・・

『自分も相手も大切にしたい誠実で対等、率直なコミュニケーションの理論と方法』※  
仕事や家庭、あらゆる人間関係に役立つスキル



講師のレクチャー

講師: NPO法人アサーティブジャパン※

参加層: 30代-40代が大半

職場・家庭等で責任ある行動を求められる年代層にさしかかっていることが背景にある。



参加者同士でロールプレイ

今後、聴覚障害女性のアドボカシースキル形成のための『エンパワメントプログラム』構築を目指す。

※ アサーティブジャパン: <http://www.assertive.org/index.shtml>

10

## ◆在学中に身につけておきたいスキル

### <聴覚障害者の高等教育の目的>

在学中に支援を受けながら学び、就労を通して社会参加する。そのために、在学中に主体的に選択・決定できる能力や職業観を身に付け、社会人・職業人として自立していくことが望まれる。

### ①セルフ・アドボカシー・スキル

自分の障害やニーズについて周囲に説明できるスキル(大学のゼミ、手話サークル等で自分のことについて話す訓練をする)

### ②コミュニケーションスキル

職場適応や社会適応に向けて、『説得・交渉・和解』のコミュニケーションのメカニズムを知り、他者との「アサーティブ」な人間関係を築くスキル(大学との交渉、手話サークル・バイト等)

11

## ◆今後の「エンパワメント支援」に期待すること

コミュニケーションスキルやセルフ・アドボカシースキルの獲得を見据えた講義や企画を取り入れたカリキュラム構築

- 「きこえない人間」としてのアイデンティティ形成とともに、「共生意識」を持つことの大切さを知り、両方のバランス感覚を育むことを促すような企画
- 講義(聴覚障害者のエンパワメント促進に結びつく内容)
- 「コミュニケーションスキル獲得」をテーマとしたワークショップ
- ロールモデルの提示(多様な職種の聴覚障害者のゲスト講演)

12





## テンプグループ

### 聴覚障がい者就労支援～サンクステンブの取り組み～

サンクステンブ株式会社(障がい者雇用促進研究所)は障がいを持ちながら働く意欲のある方々の雇用促進を目的として設立された総合人材サービス企業テンプホールディングスの特例子会社です。『共に働く社会』に向けて、たくさんの方に手話コミュニケーションの楽しさを知っていただきたいという思いから昨年「手話キャンパス」を開設しました。ホームページやセミナー、講座を通じて、様々な角度から聴覚障がい者の就労をサポートしています。

#### 就労支援事業

##### ●聴覚障がい者向け就労対策セミナー

###### 【就労対策講座】

###### ・ビジネスマナー

(仕事の基本/勤務姿勢/挨拶と言葉遣い/報告・連絡・相談  
指示の受け方/ビジネスメール/FAX送信etc.)

※ロールプレイ方式で行います

###### ・パソコンExcel & Word基本操作

※就労に必要なスキルと実務シミュレーション中心に行います

※その他各種講座がございます。詳しくはお問い合わせください

##### (特徴)

・個人指導または少人数制

・手話・筆談対応

・受講生のレベルやご希望に合わせたカリキュラムを作成

・聴覚障がい社員の就労経験から、聞こえる世界での常識やコミュニケーション等についてアドバイスします！

受講生募集中!



#### 手話講習会事業

##### ●手話講習会

テンプグループ派遣スタッフ向け

手話講習会

(例)

- ・オフィスで使える手話
- ・学童保育(保育士)向け手話
- ・販売職向け手話
- ・人材紹介対応手話



<手話講習会風景>

##### ●HP製作

コンテンツ

- ・手話体験講座
- ・社内での取り組み
- ・手話Lesson
- ・聴覚障がいの基礎知識
- ・聴覚障がい者のためのページ

[http://www.thankstemp.co.jp/hp\\_0812/main01.htm](http://www.thankstemp.co.jp/hp_0812/main01.htm)



<HP製作中>

#### 社内での取り組み

##### ●朝礼・会議・研修等での支援

- ・要約筆記(PC)
- ・ホワイトボード、ノートテイク活用
- ・シナリオ、議事録の配布

##### ●手話研修

- ・社内手話勉強会
- ・ランチ手話

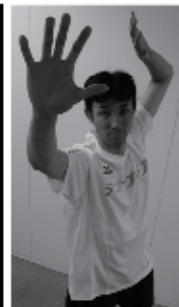


<朝礼>

聴覚障がい社員によるPC要約筆記

#### アスリート支援

テンプグループでは社会貢献活動の一環として、障がいをもたながらスポーツに携わるテンプグループ従業員の就労活動と就労の両方を支援するためにChallenged Athlete Support制度を実施しています。2009年9月に台北で開催された「デフリンピック」では、サンクステンブ所属の猪野康隆(筑波技術短期大学卒業生)が男子バレーボールに出場、入賞しました。



#### 会社概要

- 社名……サンクステンブ株式会社
- 代表者……代表取締役社長 篠原 欣子
- 設立……1991年(平成3年)12月
- 資本金……1,000万円

- 事業内容……事務請負 就労支援 清掃・シュレッダー 保険代理店  
パソコンスクール 手話 クッキー製造
- 従業員数……170名(うち聴覚障がい者数11名) 09/09末現在
- 本社……東京都中野区弥生町2-3-13 川本ビル
- 拠点……本社、池袋、横浜



お問い合わせは…サンクステンブ 手話キャンパス

TEL:03-3373-8281(代表)FAX:03-3373-2589

<http://www.thankstemp.co.jp>



話題提供「誰もが学びやすい修学環境を～広島大学の取組み～」

広島大学 アクセシビリティセンター 山本幹雄氏

誰もが学びやすい修学環境を  
～広島大学の取組み～

広島大学 アクセシビリティセンター  
山本幹雄

1. 広島大学の修学支援

1. 広島大学の修学支援

特色

- 規則に基づく学生・教職員一体型全学支援体制
- 副学長のもと全学組織による実効性ある企画運営
- 支援の拠点「アクセシビリティセンター」
- 専任教職員の配置
- 授業(実習)による支援の実施
- 学生の視点と評価に基づくPDCAサイクル型評価制度
- アクセシビリティ教育と人材育成

基本方針

修学支援の基本方針

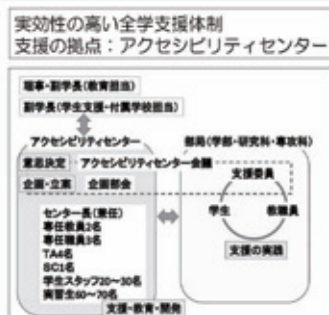
- すべての学生に質の高い同一の教育を保障
- 成績評価の基準は変えない

取組の方針

- 情報伝達・教授法・制度を工夫
- ICTの積極活用
- 能力を活かす支援・育てる支援
- 恒常的なアクセシビリティ推進

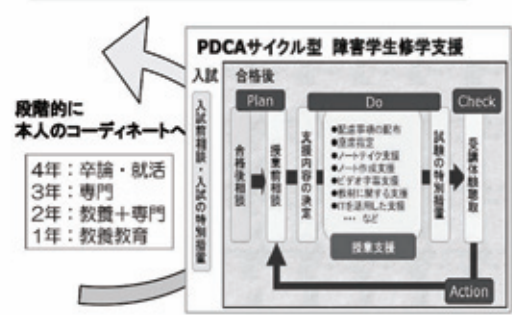
支援体制

1. 広島大学の修学支援



修学支援のPDCAサイクル

1. 広島大学の修学支援







## 2. 教育・人材育成

## 支援者育成の展開

2. 教育・人材育成

### 学内の支援者育成とケア

- 支援者育成のための講義を開講（支援の単位化）
- 証明書の発行

### 社会に開かれた人材育成

- アクセシビリティ教育の体系化
- 資格認定制度
- 資格取得者の活用と社会貢献
- 産学官連携

アクセシビリティリーダー  
育成プログラム  
(ALP)

## 身近なテーマ「アクセシビリティ」

2. 教育・人材育成

### アクセシビリティ？

- 利用しやすい
- 使いやすい
- 近づきやすい

### 社会的なニーズ

- 少子高齢化 ● マーケティング
- 高度情報化 ● グローバリゼーション
- 多様なニーズ ● 多様な価値観
- 言語や文化 ● デジタルデバイド

多様なユーザーにとって・・・

- 利用可能かどうか？
- どの程度利用しやすいか？

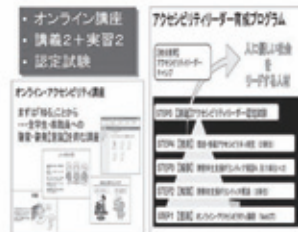
教職員・学生が共に学べる  
身近なテーマ

が求められている。

## アクセシビリティ教育と資格認定

2. 教育・人材育成

### 広島大学が資格認定(H18-H21)



⇒ オープン化:AL育成協議会が認定(H22-)

## ALPの構成

2. 教育・人材育成

### 1. アクセシビリティ教育課程

1. 【意識を育む】オンライン講座導入編
2. 【知識を育む】障害理解と支援方法の知識（2単位）
3. 【経験を積む】1年間の支援活動（実習1単位×2）
4. 【技術を育む】コーディネート力を育成する（2単位）

### 2. 資格認定

5. 【創造力を問う】アクセシビリティリーダー認定試験

### 3. 学外研修プログラム

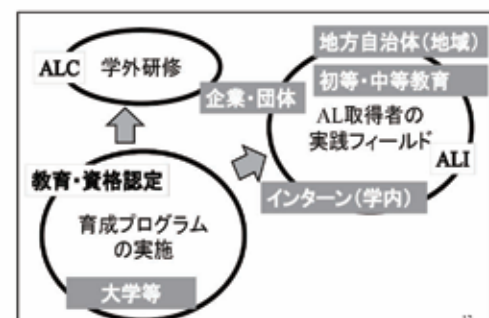
【ALC】アクセシビリティリーダーキャンプ

### 4. 資格取得者の実践フィールド

【ALI】学内・地域でのインターンシップ

## ALPの構図

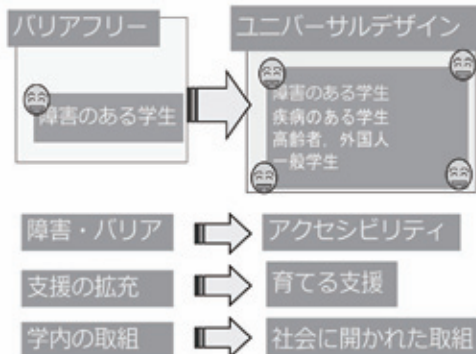
2. 教育・人材育成



### 3. 新たな取組

13

#### 新たな取組：ユニバーサルデザインへ



#### 新たな取り組み ユニバーサルな教育支援 H18～

##### ユニバーサルな教育支援

聴覚に障害のある学生  
筆記が困難な学生  
学習障害のある学生  
語学力に難のある学生  
全ての学生の復習用教材

##### 音声認識＋字幕編集



音声字幕付き教材を配信

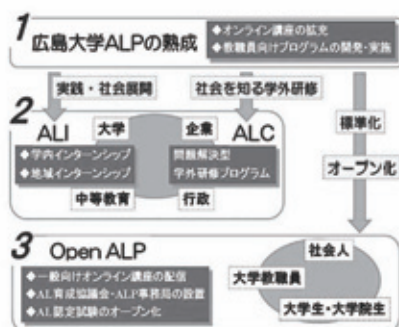
##### 音声認識システム概念図



リスピーク通訳者の育成  
編集作業の教育効果  
(学部生、大学院生)

セントメアリーズ大学  
日本IBM社と連携

#### 新たな取り組み：ALPのオープン化



14

#### 新たな取り組み：AL育成協議会

##### 幹事

- ◆広島大学
- ◆マイクロソフト
- ◆日本学生支援機構

##### 大学等(会員)

- ◆広島大学
- ◆関西学院大学
- ◆広島文教女子大学
- ◆富山大学
- ◆マイクロソフト
- ◆富士通
- ◆日本IBM
- ◆日本学生支援機構

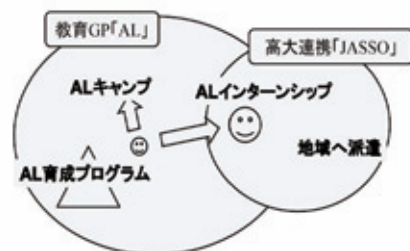
##### 承認と委託

指定大学等 (広島大学他)

- ◆アクセシビリティ教育課程
- ◆アクセシビリティリーダー認定試験
- ◆AIインターンシップ

#### 新たな取り組み：入学前から卒業後までをつなぐ

中等教育→高等教育→社会をなめらかにつなぐ  
修学支援の研究



15





話題提供「大学のキャリア支援」

愛媛大学 教育・学生支援機構 平尾智隆氏

## 大学のキャリア支援

第5回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム  
2009/11/03 於学術総合センター

愛媛大学教育・学生支援機構  
平尾 智隆

EHIME UNIVERSITY

1

## 誰も教えてくれない学卒就職の真実

- 3月に卒業して4月に就職する常識は世界では非常識。新規学卒一括定期採用方式。
- 良好な雇用機会。競争相手は同じ大学生のみ。チャンスは一度。
- 新規学卒は人生の中で最も職業選択の可能性にあふれている時。日本の大学・大学院教育は職業訓練ではない。企業の採用基準は訓練可能性(trainability)。

EHIME UNIVERSITY

2

## なぜキャリア支援をするのか？

- (経営事情)大学の生き残りをかけて。
- (統計的根拠)新卒労働市場において一番構成比が高いのが大卒だから。
- (法的根拠)職安法33条によって大学が職業紹介を行えるから。
- 平尾(2008)「大学におけるキャリア支援の社会的意義」を参照。

EHIME UNIVERSITY

3

## 「新しい」キャリア支援

- キャリアを学ぶ学部ができた。法政大学キャリアデザイン学部。
- 人材派遣会社との連携による卒業生の転職支援。関西大学。早稲田大学。
- 専門学校と連携による資格取得支援。山口大学。
- 国公立大学を通じた大学教育改革の支援(いわゆるGP)。

EHIME UNIVERSITY

4

国生	1年生		2年生		3年生		4年生		卒業生
ゼミナール	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
学部の選択	一般教養				専門教育				
キャリア教育理念	大学生活への適応		職業意識の形成			就職活動準備		就職活動支援	卒業生支援
キャリア学習	“フロンティア”ゼミナール	・キャリア教育科目の実施(一般教養・専門科目) ・課題型ゼミナール ・就職指導支援の充実(キャリアセンター) ・先輩学生による指導支援				・就職ガイダンス ・就職セミナー ・企業訪問等		・フロンティア教育 ・社会人マナー講座 ・県内企業への就職支援 ・企業訪問等	・進路相談、相談 ・卒業生キャリアサポート ・フロンティア教育 ・就職活動支援、進路指導、企業見学
キャリア指導体制	・インターンシップ(国内外、長期短期、申請必要等決定)								
キャリア支援体制	就職科担当によるキャリア・就職相談								
その他	・社会人学生(社会人学生)の指導・指導体制 ・留学生の就職支援 ・留学生の就職支援 ・東京工芸など大学外協力の活用によるキャリア支援の強化(他大学の大学) ・就職活動に関する情報の提供(キャリアセンター、就職支援、キャリア等)の連携 ・キャリア教育と大学教育の連携 ・キャリア教育の推進(キャリアセンター)								

→拡大図 P70

## いくつかの論点

- 「キャリア」支援といえども、結局「就職内定」支援か？ 職業紹介の基本(包括的・個別的・継続的)に立ち返る。「キャリア」支援であると判断できる指標は、内定後の取り組みにこそある。
- 障害学生の就職市場は、新規学卒市場と重なるのか重ならないのか？ 形成する必要がある能力に違いが生じうる。

EHIME UNIVERSITY

6

スライド 5 拡大図

回生	1回生		2回生		3回生		4回生		卒業生
セメスター	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
学習の過程	一般教養				専門教育				
キャリア教育理念	大学生活への適応	職業意識の形成				就職活動準備	就職活動本番	フォローアップ	卒業生支援
キャリア学習	・フレッシュマンセミナー	・キャリア教育科目の実施(一般教養・専門科目) ・進路ガイダンス ・資格取得支援の充実(エクステンション) ・先輩学生による後輩支援				・就職ガイダンス ・就職セミナー ・会社説明会		・フォローアップ教育 ・社会人マナー講座 ・未内定者への就職活動支援	・求人紹介, 相談 ・卒業生キャリアポランティア ・リカレント教育, 社会人教育, 生涯学習
キャリア体験学習		・インターンシップ(国内外, 長期短期, 単位認定非認定)							
キャリア相談体制	就職相談員によるキャリア・就職相談								
その他	・社会人学生(社会人院生)の就職・転職紹介 ・障害学生の就職支援 ・留学生の就職支援 ・東京オフィスなど学外施設の活用によるキャリア支援の強化(地方の大学) ・就職活動に關わる間接的経済支援(ex. 校友会, 旅行会社, ホテル等との連携) ・ジョブカフェや労働局との連携 ・卒業生の追跡調査(大学教育効果の分析)								





## 大学におけるキャリア支援の社会的意味

愛媛大学教育・学生支援機構

講師 平尾 智隆

### 1. はじめに

バブル経済崩壊以後の「失われた10年」において、若者が良好な雇用機会を喪失したという意味において、若年雇用は大きな社会問題となった。その後、景気の回復や団塊の世代の大量退職などから、学卒者の就職戦線は回復の基調にあるが、フリーター、ニート、ワーキングプアという言葉に代表されるように、若者雇用の問題は、非正規雇用、就業意欲の減退、非労働力化、貧困という様々な問題を内包していることがわかる。

これらの問題は、労働市場の需要に絡む問題であり、労働力供給の質的改善にしか過ぎない大学のキャリア支援には、自ずと限界があるということになる。しかしその一方で、教育と学生支援の現場にしかできないこともある。本稿では、学生のキャリア支援、特に民間企業への就職活動（シュウカツ）者を支援する際に知っておく必要のある事柄・考え方を整理し、「なぜキャリア支援を行わなければならないのか」を検討してみよう。

### 2. 前提としての社会構造

#### (1) 新規学卒労働市場

景気が回復したとはいえ、学卒者の立場に立てば、前述の非正規雇用、就業意欲の減退、非労働力化、貧困の問題は、実は安心・安全な職業生活と紙一重の出来事である。それは、我々の社会にはそうなるか否かの大きな分岐点が存在しているからである。

3月に学校を卒業して4月に就職する。就職活動は学校で教育を受けている時期に行う。この常識は世界的に見れば極めて特異な常識である。日本の大学生は3回生後期から4回生前期にかけて圧倒的大多数の者が就職活動を行うが、世界に目を向ければ在学中に就職活動を行い、卒業後直ちに就労を開始するという現象は、なくはないが決してメインストリームではない。

日本の新規学卒労働市場は、職業選択の幅が広く、職業経験や職業資格が不問の中で良好な雇用機会に恵まれ、競争相手も日本全国ではあるが同輩の大学生に限られる極めて特権的な労働市場である。この新規学卒労働市場での成否こそがその後の成功と苦難の大きな分岐点となるのである。新規学卒労働市場が特権的な労働市場である反面、そこに参入しないという選択は時に大きなリスク、すなわち非正規雇用や貧困の問題に直面する確率を高めることをも意味する。

この新規学卒労働市場の形成過程やその是非を問う紙幅はないが、良くも悪くも、幸か不幸か、我々の社会の職業選択は、そのような労働市場の内と外で行われている。このような新規学卒労働市場の存在が職業選択に対して持つ意味は、キャリア支援者が第1に認識しておかなければな

らない事柄となる。

また、この就職活動の開始を境に学生生活は大きく2つの時期に分けられる。すなわち、それは自分の将来を決定するための準備期間（インプット期間）と自分の将来を決定する期間（アウトプット期間）であり、前者は入学後～3回生前期、後者は3回生後期～卒業ということになる。新規学卒労働市場においては、職業経験や職業資格が不問であることを考えれば、このインプット期間の過ごし方は選抜に影響を与える重要な要因であるといえることができる。

## (2) 採用のマクロ動向

次に、新規学卒労働市場のマクロ動向はどのようなものなのかを見ていこう。市場動向の正確な把握は、キャリア支援者として第2に要求される事柄である。

リクルートワークス研究所の調査（第25回ワークス大卒求人倍率調査）によれば、2009年3月卒業予定者に対する全国の民間企業の求人数は94.8万人であり、前年より1.5万人増加している。また、バブル絶頂期であった1991年3月卒の84.0万人を大きく上回る状況となっている。一方、2009年卒業予定の民間就職希望者は、44.3万人であるので、求人倍率は2.14倍となる。

しかし、この求人倍率2.14倍は日本全国の平均であり、様々な軸からこの数字を検証しなければならない。リクルートワークス研究所の調査報告でも指摘されている通りであるが、求人倍率を業種別に見た場合、製造業2.64倍、流通業7.15倍、金融業0.35倍、サービス・情報0.75倍とまちまちである。さらに、従業員規模別に見た場合、1000人未満の企業が4.26倍なのに対して、1000人以上の企業では0.77倍と大きな差がある。地域間格差も当然存在するだろう。

また、企業は不況の爪あとによりバブル期の量的確保の重視から質的確保の重視へと採用計画を変えてきている。ある調査（株式会社ディスコ「企業の新卒採用調査」2004年10月）の結果を見ると、採用予定数に満たない企業に、その後の採用計画についてきくと「採用予定人数の確保よりも、学生の質を優先させる」と答えた企業が91.8%となっている。「人は欲しいが合う人だけを探る」という厳選採用を行う企業が無視できないほど存在し、楽観視はできないのが現実である。

就職活動のプロセスは学生の数だけある。学生の就職希望先は千差万別ということを考えれば、正確な情報をもとに業界研究と会社研究の必要性を学生に伝えるのがキャリア支援者の勤めということになる。

## 3. キャリア支援者としての役割

以上では、学生の就職活動を取り巻く社会構造と市場の状況を把握したが、ここでは、キャリア支援者として進路指導の場面でどのような役割や振る舞いをすればよいのかを整理しておこう。

### (1) 進路指導のコツ

就職活動は学生が職業選択を行うものなので、言うまでもなくそれは憲法25条に規定される職業選択の自由に従わなければならない。職業選択は、数ある選択肢の中から可能性を絞り込み、最終的には1つの職業を選び取る自己決定の作業の上に成り立っている。キャリア支援者は、学





生が自分で決断することを尊重しなければならいし、それを学生に理解させなければならない。それ故に、指導的立場ではなく、ファシリテーターとしての役割がなによりも重要になってくる。

その際に忘れてはならないのが、自分のもつ有益な情報を適切なかたちで学生に提供することである。適切で正確な情報はなによりも選択の際の大きな判断材料となる。

また、特に面接指導や履歴書添削の場などでは、同一事項でも多様な評価がなされることを学生に理解させる必要がある。就職活動は、無限に広がると思える労働市場の中でわずかなマッチングを追い求める作業なわけであるから、学生は自ずと失敗や厳しい評価に直面することになる。それが普通であるという理解は、就職活動中、そしてその後の人生においても心理的に大きな意味を持つことになる。

## (2) 進路指導のNG

とはいえ、各企業の採用基準や人員配置計画がキャリア支援者にわかるわけではない。そのような制約の中でキャリア支援者は日々格闘しているわけであるが、それ故にキャリア支援者が陥りやすい罠（進路指導のNG）について1点だけ指摘しておこう。

気をつけなければならないのは、教育や労働というのは誰もが程度の「実感」を持っている体験であり、語りやすく深められにくい危険なテーマであるということである。就職活動は、教育と労働が交錯する局面であり、キャリア支援の現場は、その危険性が最も高くなる場所である。

独りよがりな教育論や職業観、自分の成功体験を指導的に語っても、それらの事柄はたまたまそうなったに過ぎない可能性を棄却できないし、現状を取り巻く条件も違っていることが多い。暗闇の中、手探りで職業選択のためのマッチングを行っている最中の学生には、そのような言説は何の役にも立たない。

## 4. なぜキャリア支援を行うのか

以上の諸論を踏まえ、「なぜキャリア支援を行わなければならないのか」、その理由を検討しておこう。「職業選択は自由なのだから就職は本人に任せて大学は教育と研究に専念すればいい」と言えば上の問は一蹴できるが、現代の高等教育を取り巻く環境を鑑みれば、そのような答えは支持されないだろう。キャリア支援を行う根拠は次の通りである。

第1に、学生の進路状況、すなわち就職状況は大学の経営とその存在意義に関わる。言うまでもなく、就職状況が悪ければ、志願者数や入学者数の減少につながり、大学経営が立ち行かなくなり可能性は容易に指摘できる。志願者数や入学者数の減少は選抜の機能を解体させ、教育の荒廃を生むという悪循環を形成する。また、就職は学生と社会との接続という文脈において、大学の存在価値を規定する。大学にきたことが学生のその後の職業人生に何らかの効果を発揮しないならば、社会における大学の存在価値はなくなる。その意味では、学生と職業を結びつけるキャリア支援の取り組みは、大学における核心的業務であるということになる。

第2に、統計的な根拠がある。実は現在、新規学卒労働市場における学歴別の構成比で最も大きい割合を占めるのが大学卒である。大学は今や最大の労働力供給の主体なのである。大卒の価

値が一昔前に比べて目減りしている可能性も指摘できるが、構成比が最も大きいという統計的事実は、大卒者へのキャリア支援が高校の進路指導以上に重要な社会的意味をもっていることを示している。

第3に、労働法的根拠がある。多くの大学は職業安定法 33 条の 2 によって学生に職業紹介業務を行っている。職業紹介は決して勝手に行つてよい活動ではない。規制がなされているわけがそこにはある。大学が学生に行う職業紹介は、それ故に職業安定法の基本理念に沿う必要がある。その中でも最も大事にされる必要があるのは「適職紹介の原則」であろう。すなわち、求職者に対してはその能力に適合する職業を、求人者に対してはその雇用条件に適合する求職者を紹介するよう努めなければならない。

最後に、「なぜキャリア支援を行わなければならないのか」という問に対する筆者なりの答えをまとめて結語としたい。①新規学卒労働市場の特異性は、人生に一度きりといっても過言ではないメリットを学生に与える。そこでより良好な雇用機会を確保できるよう支援することは、教育機関の核心的業務である。②新規学卒労働市場では、採用において職業経験や職業資格は不問である。学生が大学に来たことの意味は、その後の職業人生においてこそ発揮されるとすれば、不明確な選抜基準の中で教育から職業への結びつきを支援できるのは、教育機関に身を置く者において他にない。③新卒者の構成比において大卒が一番多いという事実は、大学のキャリア支援の社会的重要性を統計的に証明しているし、職安法によって職業紹介を行っているのであれば、その労働法的小および社会的責任を果たさなければならない。

残念ながら新規学卒労働市場は大学が完全にコントロールできるものではない。しかし、学生がそこをより良いかたちで通過し、職業生活のスタートを切れるために支援ができるのは大学以外にはない。大学におけるキャリア支援とは何なのか。景気や学力低下という変動の激しい事象を基にした議論ではなく、その社会的意味を見据えたキャリア支援の構築が望まれる。

平尾智隆「大学におけるキャリア支援の社会的意義」『平成 20 年度中国・四国地区学生指導研修会報告書』日本学生支援機構中国四国支部、2008 年 12 月、20-23 頁。



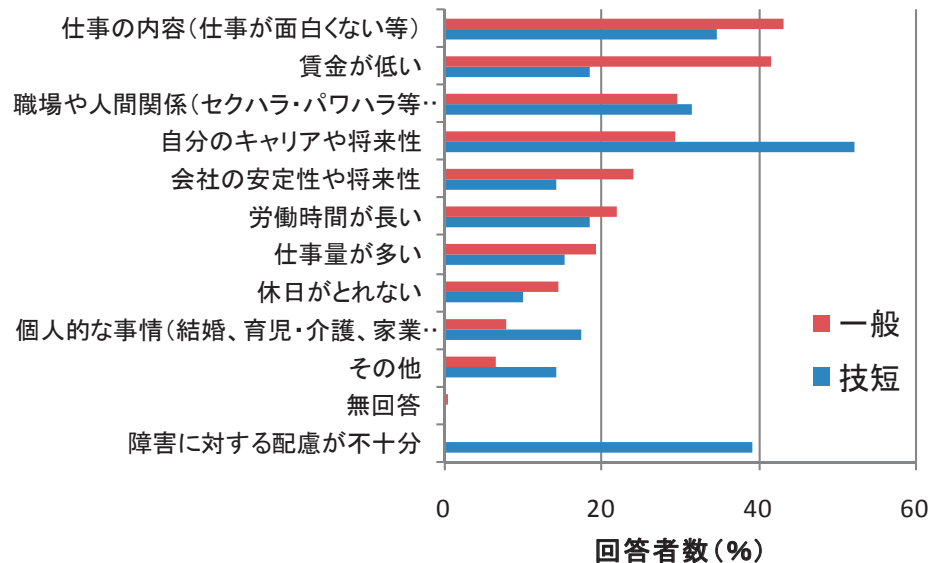


## 話題提供「就労レディネスとエンパワーメント」

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 石原保志氏

### 1. 高等教育機関を卒業した聴覚障害者の就労の実態

#### 1) 転職を考えた理由（一般の調査との比較）



#### 2) 在学生へのアドバイス

常に自分から積極的に話すこと／自分からはたらきかけていく勇気と行動／周りが助けしてくれるのを待つのではなく自分から動く／責任転嫁せず自己責任の心構えを持つ／分からないことは自分から確認する／自分の障害のことは自分から話す／自分の「聞こえ」の状態は周囲には理解されにくい→上長に説明

### 2. 聴覚障害者の就労における問題

#### 1) 障害に起因する活動参加の制約

会議や研修への参加、業務に関わる情報伝達、インフォーマルな情報の共有、職場におけるコミュニケーション等

#### 2) 活動制約を規定する要因

##### (1) 環境因子：活動制限、参加制約に対する周囲の理解と対応

コミュニケーション方法、情報保障、等

##### (2) 個人因子：聴覚障害者個人の能力、態度

コミュニケーションスキル、リテラシー、社会常識・マナー、障害啓発能力、業務内容に関する知識、技能

### 3. エンパワーメントの基盤

直接的体験・間接的体験

目標設定と意志決定

努力体験、失敗体験、成功体験、克服体験

体験を通じた自信と自己肯定感

自己の将来像、モチベーション



依存的心理状態からの脱却  
自己および社会の客観的認識  
障害認識



就労レディネス

### 4. 青年期における就労を意識したエンパワーメント、セルフアドボカシーに関わる指導

#### 1) 個人的体験の共有（間接的体験）

障害学（各人の体験の発表と類似体験の交換）

#### 2) 障害についての知識

障害学（生理、病理、法律、福祉、教育、歴史、社会）

#### 3) 障害補償についての知識

情報保障のある講義、講演への参加／障害学（情報保障方法、障害補償機器）

#### 4) 困難が出現する状況についての知識

職場実習／卒業生等の体験談／障害学（就労調査、相談事例）

#### 5) 自己のコミュニケーション特性の理解

模擬面接（親密度の低い人物との対話）／各種検査／個別コミュニケーション指導（トラッキング法）

#### 6) 困難への対処についての知識、技術、態度

卒業生等の体験談／障害学（就労調査、相談事例）／個別コミュニケーション指導（面接指導）

#### 7) 就職活動、職場適応に関する知識

就職セミナー／障害学（卒業生等の体験談）





# 参考資料



# 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク PEPNet-Japan

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク\*（以下 PEPNet-Japan; The Postsecondary Education Programs Network of Japan）は、2004年10月筑波技術大学の呼びかけにより結成された高等教育機関間のネットワークで、これまでに聴覚障害学生を受け入れ、積極的に支援を行ってきた連携大学・機関によって組織されています。設立時には日本財団の助成による PEN-International（聴覚障害者のための国際大学連合）の支援を受けて発足しました。現在は、筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターに事務局が置かれ、文部科学省特別教育研究経費による拠点形成プロジェクトの一環として事業を展開しています。

本事業の目的は、全国の聴覚障害学生が在籍する大学および関係諸機関間のネットワークを形成し、高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生に対する支援体制の確立をはかることで、情報や実践の蓄積と、他大学・機関への発信の2つを目指して活動を行っています。



(2009年4月1日現在)

連携大学・機関

## こんな活動をしています。

各種研修会の開催



情報交換会の開催



教材作成・配布



Web による情報発信



メーリングリスト運営

諸外国の視察調査



運営委員会の開催







## これまでの活動成果

### DVD シリーズ「聴覚障害学生支援」

本 DVD シリーズは、大学等の高等教育機関で学ぶすべての聴覚障害学生がバリアを感じることなく、いきいきと大学生活を送ることを願って作成しています。聴覚障害学生にはどのような支援が必要か、聴覚障害学生を受け入れた大学はどのような準備を始めればいいのか、なぜ支援が必要なのかを映像を通して分かりやすく解説しています。

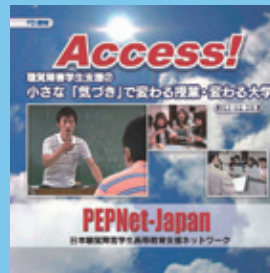
#### Access! 聴覚障害学生支援① 「学び」を支える大学づくり



初めて聴覚障害学生を受け入れる大学の教職員の方のために、支援の実際と支援体制の立ち上げの基本的な部分をわかりやすく解説しています。大学関係者のみならず、聴覚障害学生支援に関わるすべての方々にご活用いただける1枚です。

New!

#### Access! 聴覚障害学生支援② 小さな「気づき」で変わる授業・変わる大学



大学の教員を対象として、どのような点に注意をすれば聴覚障害学生に伝わる授業になるのかを解説するとともに、支援の教育的位置づけや支援による教育効果にも触れています。FD 教材としてもご活用下さい。

### トピック別聴覚障害学生支援ガイド —PEPNet-Japan TipSheet 集



「聞こえないってどういうこと?」「ノートテイクって何?」

聴覚障害学生支援を実施するためには、意外といろいろな知識が必要となるものです。PEPNet-Japan では、このような基本知識をトピックごとにまとめ、簡単に参照できるリーフレットを作成し、新たに現在までのトピックをまとめた冊子版を発行しました。冊子版・リーフレットともにご自由に配布していただけるよう Web 上で公開していますので、ダウンロードの上ご活用下さい。



1. 高等教育における聴覚障害学生支援
2. 聴覚障害学生支援の全国的状況
3. 聴覚障害
4. 聴覚障害幼児・児童・生徒を囲む教育環境
5. 聴覚障害教育におけるコミュニケーション方法
6. 情報保障の手段
7. 文字による支援方法
8. 手書きのノートテイク その特徴と活用
9. パソコンノートテイク その特徴と活用
10. 高等教育における手話通訳
11. 手話通訳による支援
12. 通訳者の健康障害とその対応
13. 補聴援助システム
14. 聴覚障害支援におけるコーディネーター業務
15. 入学当初のサポート
16. 学期初めのコーディネーター業務
17. 聴覚障害学生支援の財源
18. 聴覚障害学生の心理的支援
19. 授業における教育的配慮
20. 音声認識技術による情報保障
21. 支援体制の組織化のプロセス

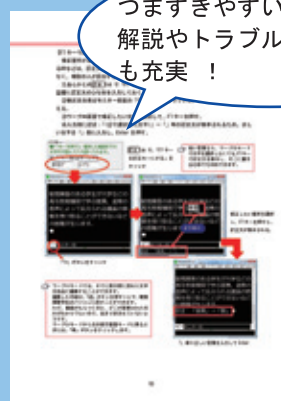
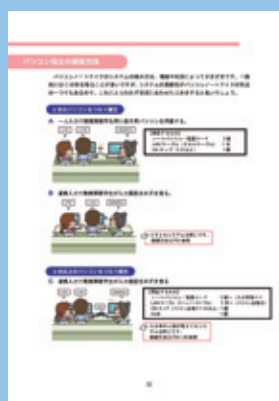
## やってみよう！ パソコンノートテイク パソコンノートテイク導入支援ガイド

NEW

初心者向けの  
簡易版も発行  
しました！



やってみたいけど難しそう・・・そんなパソコンノートテイクに対するイメージを払拭します！ 支援を始めるために必要な機器からパソコン同士の接続・設定、入力の基礎までとにかくわかりやすく解説しています。



つまづきやすいポイントの  
解説やトラブルシューティング  
も充実！

## その他、ホームページをご覧ください。

聴覚障害学生の支援に役立つコンテンツを多数公開しています。ご興味のある方はホームページをご覧ください。

音声認識によるリアルタイム字幕  
作成システム構築マニュアル



各種研修会資料



これまでに開催した研修会資料は  
すべてWebにて公開しています。

大学訪問レポート



WWW.PEPNet-J.org





## これまでの活動

2004年度	
10月29日	第1回関係者会議(筑波技術大学)
6月～1月	第1回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告書作成
7月～1月	聴覚障害学生のサポート体制についての全国調査実施
1月4日～8日	事務局によるアメリカNTID訪問(ロチェスター市)
3月13日～24日	第2回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察(ロチェスター市・ニューヨーク市)
2005年度	
4月3日	北関東・東北地区聴覚障害学生交流会(仙台メディアテーク、筑波技術大学／協力:宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター)
5月14日	第2回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告会(日本財団／第8回「聴覚障害者と高等教育」フォーラム内／共催:関東聴覚障害学生サポートセンター)
6月22日～7月1日	NTIDテクノロジーシンポジウムへの出席(ロチェスター市)
6月23日	大学教職員研修「障害学生を全国的に支援するネットワーク構想」(SCS利用研修「高等教育に学ぶ障害者への配慮と学習支援」内／主催:メディア教育開発センター)
9月23日	自主シンポジウム「聴覚障害学生高等教育支援ネットワークの構築に向けて」(金沢大学／日本特殊教育学会第43回大会内)
10月上旬～中旬	NTID訪問団来日(シンポジウムへの出席、連携大学視察(広島大学、同志社大学、日本福祉大学))
10月8日	第1回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム(筑波技術大学)
12月16日	聴覚障害学生支援担当者研修セミナー「高等教育機関に学ぶ聴覚障害学生への支援」～大学は、教職員は何をなすべきか?人的サポート・IT支援・情報技術～(東京国際交流館／主催:メディア教育開発センター、筑波技術大学、日本学生支援機構)
2006年度	
3月29日～4月9日	第3回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察(ロチェスター市、レイヴィル市) PEPNet全米大会 活動報告「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)の取り組み」(レイヴィル市)

5月13日	情報交換会「第3回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告および事業報告」(日本財団)
5月14日	第3回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告会(一般公開／日本財団)
6月3日	第9回「聴覚障害者と高等教育」フォーラム共催(日本財団)
6月～8月	「聴覚障害学生支援FAQ」開発
7月～9月	「ノートテイク養成の手引き」開発
9月16日～18日	自主シンポジウム「聴覚障害学生高等教育支援ネットワークの構築(2)」(群馬大学／日本特殊教育学会第44回大会内)
9月24日	ノートテイク指導者養成講座(日本財団・同志社大学・金沢大学・愛媛大学(多地点同時開催))
10月11日	アジア太平洋聴覚障害問題研究会 APCD 活動報告「聴覚障害学生高等教育支援ネットワークの取り組み」(筑波技術大学)
11月18日	第2回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム(日本福祉大学名古屋キャンパス)
11月19日	情報交換会「NETACサイトコーディネーターから学ぶ聴覚障害学生支援」(日本福祉大学名古屋キャンパス)
12月15日	障害学生支援コーディネーター育成FD研修会「ICTを活用したはじめての聴覚障害学生支援」(日本財団／共催:メディア教育開発センター・筑波技術大学)
1月7日～12日	アメリカ視察「聴覚障害学生支援のための先端情報保障技術」(メイン州)
1月～2月	理解啓発DVD「BeingDeaf」日本語字幕ビューアー開発
2月18日	第1回コーディネーター情報交換会(日本財団)
2007年度	
5月26日	第2回コーディネーター情報交換会(同志社大学)
5月	聴覚障害学生支援におけるIT機器利用に関するアンケート調査実施
4月～6月	TipSheet「手話通訳による支援」「高等教育における手話通訳」「学期初めのコーディネート業務」開発
4月～6月	資料集「聴覚障害学生支援システムができるまで」開発
4月～7月	「はじめての聴覚障害学生支援講座」サイト開発

7月2日	情報交換会「アメリカ視察「聴覚障害学生支援のための先端情報保障技術」報告」(日本財団)
8月8日	大学訪問レポート「同志社大学」開発
8月10日	新規メンバーリスト稼働開始
9月1日	第3回コーディネーター情報交換会(TKP 京都四条烏丸)
10月中旬	「大学ノートテイク支援ハンドブック」出版
10月20日	第3回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム(筑波技術大学)
10月21日	第1回全国障害学生支援コーディネーター会議(筑波技術大学)
11月～3月	DVDシリーズ「Access!聴覚障害学生支援 ① 「学び」を支える大学づくり」撮影・編集
12月8日～16日	アメリカ視察「高度専門領域に対応した手話通訳者の養成」(ロチェスター市)
12～3月	TipSheet「補聴援助システム」開発
1月12日	第4回コーディネーター情報交換会(関西学院大学)
3月	パソコンノートテイク導入支援ガイド「やってみよう!パソコンノートテイク」開発
3月5日	アメリカ視察「高度専門領域に対応した手話通訳者の養成」報告会(日本財団)
<b>2008年度</b>	
4月～7月	TipSheet「音声認識技術を用いた情報保障」開発
7月8日	DVDシリーズ「Access!聴覚障害学生支援 ① 「学び」を支える大学づくり」発行
8月29日	資料集「聴覚障害学生支援システムができるまで 第2集」開発
9月7日	第5回コーディネーター情報交換会「コーチングによる学生支援」(丸ビルコンファレンススクエア)
10月26日	第4回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム(キャンパスプラザ京都)
10月26日	TipSheet「支援体制の組織化のプロセス」開発
10月26日	「トピック別聴覚障害学生支援ガイド—PEPNet-Japan TipSheet集」開発
11月～3月	DVDシリーズ「Access!聴覚障害学生支援 ② 小さな「気づき」で変わる授業・変わる大学」撮影・編集
11月9日	第6回コーディネーター情報交換会「障害学生支援における組織マネジメント」(立命館大学)
2月22日	第7回コーディネーター情報交換会「ボランティア・コーディネートの基本的な流れとポイント」(宮城教育大学)

## 現在の取り組み

現在PEPNet-Japanでは、主に以下のような活動を行っています。

### 1. 啓発教材の作成

- 聴覚障害学生支援ガイド「TipSheet」の拡充
- DVD シリーズ「聴覚障害学生支援」の作成
- Web コンテンツ  
「大学訪問レポート」の拡充



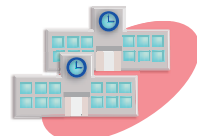
### 2. 情報保障手段の評価

- 高等教育に求められる情報保障技術の分析
- 評価指標の試行的作成
- 手話通訳の導入に向けた検討



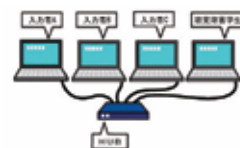
### 3. 支援体制構築・運営ノウハウの共有

- 支援体制構築事例の収集とコンテンツ作成
- コーディネーター情報交換会の開催
- Web コンテンツ  
「実践事例アイデア集」の作成



### 4. 支援技術の導入支援

- 支援技術導入のためのコンテンツ作成
- パソコンノートテイク導入マニュアルの作成
- 音声認識技術の効果的な活用マニュアル作成







## 運営組織

### 代 表

村上芳則 筑波技術大学・学長

### 運営委員(○は運営委員長)

- |       |                             |
|-------|-----------------------------|
| ○石原保志 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授    |
| 新國三千代 | 札幌学院大学バリアフリー委員会(人文学部)・教授    |
| 松崎 丈  | 宮城教育大学教育学部・准教授              |
| 高橋明美  | みやぎ DSC・スタッフ                |
| 及川 力  | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・センター長 |
| 白澤麻弓  | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授   |
| 倉谷慶子  | 関東聴覚障害学生サポートセンター・コーディネーター   |
| 廣瀬洋子  | 放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター・教授     |
| 金澤貴之  | 群馬大学教育学部・准教授                |
| 岩井 宏  | 静岡福祉大学社会福祉学部・講師             |
| 岩田吉生  | 愛知教育大学教育学部・准教授              |
| 藤井克美  | 日本福祉大学社会福祉学部・教授             |
| 西村 卓  | 同志社大学学生支援センター・所長            |
| 青野 透  | 金沢大学大学教育開発・支援センター・センター長     |
| 林田真志  | 広島大学大学院教育学研究科・講師            |
| 高橋信雄  | 愛媛大学教育学部・教授                 |
| 太田富雄  | 福岡教育大学附属特別支援教育センター・教授       |

### 事務局員(○は事務局長)

- |       |                           |
|-------|---------------------------|
| ○白澤麻弓 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授 |
| 柴 正彦  | 筑波技術大学総務課・課長              |
| 白澤麻弓  | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授 |
| 小林正幸  | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授  |
| 長南浩人  | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授 |
| 三好茂樹  | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授 |
| 河野純大  | 筑波技術大学産業技術学部産業情報学科・准教授    |



第 1 回関係者会議



アメリカ視察報告会



シンポジウムの開催



第 1 回アメリカ視察

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

URL <http://www.pepnet-j.org> TEL/FAX 029-858-9438 E-mail [pepj-info@pepnet-j.org](mailto:pepj-info@pepnet-j.org)

担 当: 白澤麻弓 (筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター准教授)

※本事業は、文部科学省特別教育研究経費による拠点形成プロジェクト(筑波技術大学)の活動の一部です。



# 札幌学院大学

●支援組織名称 札幌学院大学バリアフリー委員会  
http://www.sgu.ac.jp/bfc/

●スタッフ 教職員 14 名、学生スタッフ 120 名

聴覚障害学生	10 名 (内 7 名支援希望)	学部生	10 名
視覚障害学生	1 名	院生	0 名
肢体障害学生	8 名 (聴覚・視覚障害の重複 1 名)		

設置形態	私立大学
学生数	4, 465 人
所在地	〒069-8555 北海道江別市文京台 11 番地

## 学内支援体制

2001 年教職員および学生によりバリアフリー委員会発足。2002 年度から障がい学生支援に関わる諸経費を大学予算で対応。現在、全学的組織である「障がい学生支援連絡会議」の下にバリアフリー委員会が置かれている。

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記 (IPtalk 使用)、手話通訳 (補助的)		
利用者数	7 名	学部生	7 名
		院生	0 名
ノートテイク数	09 年度：前期実数 45 名 (ノート 21 名、PC 15 名、ノートと PC 9 名)		
サービス提供時間数	09 年度前期→週 61 科目 (NT 35 科目、PC 26 科目) (08 年度前・後期合わせて 120 科目)		
報酬および経費	770 円/時間		
募集方法	掲示板、HP に募集ポスターを掲示、情報ポータルで募集のお知らせ、新年度のガイダンス時にバリアフリー委員会の学生達が手分けして全学部学科に募集説明、活動説明会の開催		
コーディネート方法	バリアフリー委員会テイク統括部が行う。		
養成方法	年間を通して毎週 1 回程度テイク講習会を実施。新学期 2 ヶ月間は、毎週数回実施。先輩学生が講師を務める。先輩学生や被テイク者も助言者として参加する。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	先輩学生が後輩学生を育てながら相互に育ち合っている。		

## 手話通訳

利用者数	0 名	学部生	0 名
		院生	0 名
手話通訳者数	0 名		
サービス提供時間数	ノートや PC テイクの補助で使用		
報酬および経費	770 円/時間		
募集方法	手話通訳のみの募集はしていない。		
コーディネート方法	バリアフリー委員会テイク統括部が聴覚障がい学生の希望を聞いて、配置する。これまではゼミや学外などの実習で要望があった。		
養成方法	手話学習会を毎週 1 回実施。		
本学手話通訳の特徴	テイクの補助手段およびテイク者と被テイク者とのコミュニケーション手段として使用。		

## Check!

学生・教職員の協働により委員会を運営している。障がいを抱える学生と支援学生が主体的に企画・運営を担う。

## みんなでしゃべり場

札幌学院大学バリアフリー委員会では、講義保障のスキルを高めるテイク講習会・手話勉強会の他に、障がい学生支援について様々な角度から学ぶ取り組みも学生が中心になって行っています。学外から講師を招いて開催する各種講演会がそうですが、地味ながらももう一つ学生たち自身の力を養っているのが、18:30 から定期的に開催している「みんなでしゃべり場」というディス



カッションの場です。例えば、「聴覚障がい者が駅、病院、停電の時に困ること、その時私達にできる事、設備などの改善」など講義保障以外のことについても、自分たちの視点で学び合っています。

## サービス向上を目指して

ノートとパソコン要約筆記のテイク者養成講座を先輩が講師となって実施している。数名の先輩や被テイク者達も補助者として参加し、後輩のテイクの内容を個別にチェックしたり、助言している。また、先輩達が作成したテキストを引き継いで改訂しながら継続的にテイク者養成の向上を図っている。これらはすべてボランティアである。今後の課題は、テイク者の講師や補助者を育てるプログラムを充実させること、講座運営に携わる学生達への相応の待遇を検討することである。

## 参考資料

札幌学院大学バリアフリー委員会のホームページ  
(<http://www.sgu.ac.jp/bfc/>) に活動内容を掲載。

問い合わせ先 大学：教務課 教務事務部長  
電話 011-386-8111/FAX011-386-8111  
学生組織：sgu\_bfc@sgu.ac.jp



# 宮城教育大学

●支援組織名称 宮城教育大学 しょうがい学生支援室

●スタッフ 教員12名、学生スタッフ約90名

聴覚障害学生	8名	学部生	1,573名
		院生	130名
視覚障害学生	1名		
肢体障害学生	2名		

設置形態	国立大学法人宮城教育大学
学生数	1,707人
所在地	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字 青葉149番地

## 学内支援組織図

支援室	専門部会
室長	聴覚障害部会
(学務担当副学長)	視覚障害部会
室員	運動障害部会
(教授会構成員より若干名)	
職員(コーディネーター)	
(必要に応じて配置：現在は3名)	

## ノートテイク・パソコンノートテイク・音声認識通訳

利用者数	7名	支援者数	89名(NT89名/PC30名/音声認識23名)
サービス提供時間数	週54コマ	報酬および経費	900円/時間(教育実習のみ)
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示、募集用リーフレット配布(展示スペースで配布あり)、学内行事におけるPR映像の放映		
コーディネート方法	コーディネーター3名(教務補佐員)が連絡調整する。聴覚障害学生及び学生ノートテイカーの助言・指導を担当する経験の長い学生と連携を図って適切なコーディネートを行っている。		
養成方法	初心者対象、経験者対象の研修会を毎月2回ほど実施。支援室担当教員も研修に助言・協力している。		
本学ノートテイク・パソコンノートテイクの特徴	本学の障害学生支援を、特別支援教育における障害児・者支援の実践に必要な知識と実行力の養成として位置づけて活動している点。教室でビデオやスライドの使用がある場合はマルチディスプレイシステムを使って1つのスクリーン上に複数の画像を投影している。		

## 手話通訳

利用者数	6名
手話通訳者数	2～6名(地域通訳者のみ)
サービス提供時間数	オリエンテーション、論文発表会等単発的支援のみ
報酬および経費	外部派遣機関の規定による
募集方法	みやぎ通訳派遣センターに依頼。できる限り本学への派遣実績のある通訳者を派遣するよう依頼。
コーディネート方法	発表会等の日程が決定後、担当の各主幹から派遣依頼。障害グループ担当教員が依頼方法について助言。
養成方法	担当教員と一緒に事前検討会及び事後反省会。今後は、手話通訳も兼ねるしょうがい学生支援コーディネーターと共に通訳の様子を記録し評価を行うことが課題。
本学手話通訳の特徴	教員・学生も手話通訳者が通訳しやすい環境整備に協力している点。

## 聴覚補償

利用者数	1名
サービス提供時間数	週2コマ
補償方法	①赤外線補聴システム (赤外線ラジエーター《リオン》) ②電波を使った補聴システム (パナガイド《Panasonic》)
補償方法の選択	講義室の状況、講義の形態、個々の使用している補聴器の種類などによって補償を行う。集団討論に対応可能なシステムも構築した。
本学聴覚補聴の特徴	比較的多くの種類の補償方法の中から最適な方法を選択できる点。

### Check!

しょうがい学生支援室という専門部署を中心とした全学的な支援体制の拡充

## 一人一人にあった支援体制の構築を

本学は、特別支援教育全領域をカバーできる専門教員が揃っており、その専門的人的資源を最大限に活用するために「しょうがい学生支援室」を設立して、障害学生支援体制の充実化を図っている。

本年度は、平成19年度学生支援GP「障害学生も共に学べる総合的障害学生支援」で、1)学生教育研修事業、2)障害学生支援技術開発促進事業の2つを実施して3年目を迎える。この成果は、上記の情報保障の取り組みにもあらわれている。ただし、周囲の一方的な支援構築に終始しないように、まず聴覚障害学生のニーズを教育的な観点から評価し、求められる支援技術や対応方法を講じることを出発点とし、そのために聴覚障害専門教員とコーディネーターが随時協議して聴覚障害学生一人ひとりの問題状況の把握と支援の方針を共通確認して実施している。

### 問い合わせ先

宮城教育大学 しょうがい学生支援室 松崎 丈  
e-mail joemk@staff.miyakyo-u.ac.jp  
しょうがい学生支援室(3号館2階南側)

# みやぎDSC

(Deaf Support[Students] Center)

形態	任意団体
所在地	〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1丁目 17-1-116 高橋方 FAX 022-233-9571

- 創設 2003年4月1日
- 代表 松崎 丈
- URL <http://blogs.yahoo.co.jp/jyohosaposen>

運営スタッフ 14名 (兼務あり)	代表	1名
	事務局	3名
	相談事業	4名
	普及・啓発事業	4名
	養成・研修事業	4名
	ネットワーキング事業	4名

## 事業内容・実績

相談事業	教職員及び聴覚障害学生対象の相談及びその保護者、関係者等の総合的な相談を行う。	養成・研修事業	聴覚障害学生・支援者・教職員それぞれの対象者に合わせた養成・研修を行う。
普及・啓発事業	教育機関や地域に向けた聴覚障害学生支援に関わる広報活動及び啓発行事の開催。対象者の幅を広げ、中高生・保護者等広範囲を対象とする。	ネットワーキング事業	聴覚障害学生支援関係の団体との情報交換・課題の共有・ノウハウの提供を行う。

### 前年度までの実績 (2003～2008)

- 大学等のコンサルティング(大学9校、高校2校、専門学校等数校)  
尚絅学院大学・仙台白百合女子大学・聖和学園短期大学・仙台大学・東北学院大学・東北工業大学・東北生活文化大学・東北福祉大学・東北文化学園大学・仙台白百合学園高等学校、宮城県宮城野高等学校、各種専門学校他
- ノートテイク研修講師・通訳スタッフ派遣(大学11校、高校2校、専門学校等数校)  
尚絅学院大学・仙台白百合女子大学・聖和学園短期大学・東北学院大学・仙台大学・東北文化学園大学・東北工業大学・東北生活文化大学・東北福祉大学・東北大学・宮城教育大学・仙台白百合学園高等学校、宮城県宮城野高等学校、各種専門学校他
- 助成事業実績  
宮城県青少年課青年団体育成推進事業助成事業(1件)、日本財団助成事業(1件)、俱進会助成事業(1件)、コープほっとわ〜く基金事業(2件)

## 大学への専門的支援の拠点として

宮城県内の中・高等教育機関で学ぶ、聞こえない・聞こえにくい学生(聴覚障害学生)と中・高等教育機関を支援する専門的組織として、2003年4月1日に「宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター」として設立されました。2009年度より、団体名を『みやぎDSC』と変更し、宮城を活動の拠点に東北地方における中・高等教育機関に所属する聴覚障害学生・支援学生・教職員に対して多角的な支援を行います。  
(みやぎDSCパンフレットより)

Check!

学生、大学、関係機関、地域とのつながりを活かした支援がウリ!



問い合わせ先：所在地参照



# 関東聴覚障害学生 サポートセンター

●創設 1984 年（創設当初は関東学生情報保障者派遣委員会）  
●URL <http://kantou-saposen.main.jp/>

形態	任意団体	
所在地	事務所を持たず、コーディネーターやコンサルタントのノウハウを持ったスタッフのネットワークによって運営。	
運営スタッフ	13 名	会計、広報、相談、養成、コーディネーター

## 事業内容・実績

相談事業 1	聴覚障害学生本人及び、支援に当たる大学担当者に対し、相談及び情報提供を行う。 年間相談件数は 30～70 件。通訳の利用や養成講座、サポート全般についての情報を求めるものが約 70%を占める。	普及・啓発事業	「聴覚障害者と高等教育」フォーラムの開催や関連誌への寄稿を通して、聴覚障害学生支援の必要性や現状と課題を発信してきた。 2006 年度以降は企業向け啓発研修の依頼も受けて実施。
相談事業 2 （ろう学生相談員）	聴覚障害学生からの相談に対しては、サポートサービスを利用した経験の深いろう者スタッフが対応し、心理面のサポートや情報提供に当たる。	ネットワーキング事業	学生当事者団体や地域の要約筆記・手話通訳グループ、通訳派遣機関等との連携や情報交換を行う。
養成事業	大学からの依頼に応じてノートテイク養成講座を開催する。事前打ち合わせ、カリキュラム構成、養成後のフォローアップも含めてサポートし、3 年後には大学独自で養成が担える体制作りを目指す。年間 5～10 件実施。	「聴覚障害者と高等教育」フォーラムの開催	1997 年より年 1 回、聴覚障害学生支援の先進的な事例紹介や情報交換などを通し、高等教育の将来像を模索するフォーラムを開催。 2006 年に開催した第 9 回では、全国から約 60 名の参加があり、分科会形式で議論を深めた。
通訳者の紹介・斡旋	大学の支援の一環として依頼に応じて手話通訳者、ノートテイク等者の紹介、斡旋を行う。 また、地域資源の活用などについてアドバイスを行う。	研修会の開催	フォーラムでの議論をより深め、関係者どうしのネットワーク作りを促進することを目指し、ニーズに応じたテーマを設定して、聴覚障害学生対象、教職員対象、通訳者対象の小研修会を開催した。教職員向け研修会では、専任コーディネーターの講演や、ノートテイク講座の見学会を実施した。 2007 年度以降は、聴覚障害学生自身の活動に対する支援に力を入れ、学生団体と共同で企画・運営する研修会などを運営している。
研修・講師派遣事業	地域のサークルや大学等の依頼に応じて研修会等へ講師を派遣する。 2006 年度以降は大学職員向けの研修も実施。		

## 長期的な視野で、できることから支援体制づくりを

聴覚障害学生の入試相談と同時に、支援の必要性に気づいて何らかの対応を取る大学が増えてきている。その一方で、支援方法についての情報が得られず、数少ない他大学の事例などを参考に手探りで支援を開始する大学も少なくない。

サポートセンターでは、入学した聴覚障害学生が卒業するまでの 4 年間、あるいはその後も長く安定した支援を提供できる体制となるよう、長期的な視野に立ち、その大学に合った方法で少しずつ体制を充実させていくための情報提供や研修活動を行っている。今は、一つひとつの大学が支援の経験を培っていくための支援を提供しているが、今後は、大学どうしの協力関係を活用して、より円滑で充実した支援の提供につなげるため、大学間ネットワークづくりを目指したい。



<教職員研修会の様子>

### 参考資料

- ◇吉川あゆみ・太田晴康・広田典子・白澤麻弓（2001）  
「大学ノートテイク入門」人間社
- ◇斉藤佐和監修 白澤麻弓・徳田克己（2002）  
「聴覚障害学生サポートガイドブック」日本医療企画
- ◇吉川あゆみ他（2007）  
「大学ノートテイク支援ハンドブック」人間社

### 問い合わせ先

事務局 連絡先 E-mail 上記 URL お問い合わせフォーム  
よりお問い合わせください

# 群馬大学

●支援組織名称 学務部学生支援課 障害学生支援室

●スタッフ 職員 4 名

聴覚障害学生	7 名	学部生	5 名
視覚障害学生	0 名	その他	専攻科 1 名 院生 1 名

設置形態	国立大学法人
学生数	約 6800 人（学部・専攻科・大学院を含む）
所在地	〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地

## 学内支援体制

・平成 17 年 6 月 10 日に「群馬大学障害学生修学支援実施要項」を制定。障害学生への支援を全学部で統一行的に行うため、支援の基準を統一化し、全学の予算で対応。  
・現在は障害学生支援室職員がコーディネートを行い、各学部と連携して対応している。

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	■ノートテイク■パソコン要約筆記		
利用者数	7 名	学部生	5 名
		その他	2 名
ノートテイク数	登録テイクカー72 名		
サービス提供時間数	聴覚障害学生が希望するすべての授業（ゼミや、就職ガイダンスなどの大学が実施する各種講座も含む）		
報酬および経費	800 円／時間（1 コマ 1,200 円）		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。オリエンテーション等でのチラシ配布や呼び掛け。定期的な講習会の実施。聴覚障害学生自身の呼び掛け。		
コーディネート方法	コーディネートは障害学生支援室職員。基本的に、テイクは登録学生テイクカーが有償で行う。テイクカーにはメーリングリストで情報保障の必要な日時等の情報を流し、条件にあったテイクカーを配置（基本的に半期固定）。テイクカー自身の履修講義と重ならないよう調整する。1 講義（90 分）に 2 名配置。		
養成方法	登録時に講習会 1.5 時間を行う。障害学生支援室職員が講師となり、実践練習を中心に行う。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	PC テイクは PC 連係入力ソフト（IPTalk）による 2 名連係入力。ゼミ形式の授業では教員や他の学生も字幕を確認できるよう、モニターやスクリーンを使用。講義以外の実習等、学外での情報保障も行う。		

## 手話通訳

利用者数	1 名	学部生	0 名
		その他	専攻科 1 名
手話通訳者数	4 名		
サービス提供時間数	聴覚障害学生が希望するすべての授業（ゼミや、就職ガイダンスなどの大学が実施する各種講座も含む）		
報酬および経費	職員のため、給与として支給		
募集方法	職員で対応できない場合は、群馬県認定手話通訳者協会と全国手話通訳問題研究会群馬県支部に紹介を依頼。		
コーディネート方法	障害学生支援室の職員がコーディネートを行う。1 講義（90 分）に 2 名配置。		
養成方法	講義で通訳をしている様子をビデオ収録し、それをもとに聴覚障害学生を交えた反省会を行うことで技術向上に努めている。		
本学手話通訳の特徴	職員が手話通訳業務を担う。		

## <その他>

FM 補聴器や iPhone を利用した字幕呈示システムなど、障害の程度や環境に応じた学生のニーズに対応する情報保障を行っている。

## Check!

ガイダンスや事務手続き等、講義以外の大学生活に関わることにしても情報を保障。全学的な統一基準により、どの学部でも質の高い支援体制が可能。

## 情報保障の充実に向けて

### <ノートテイク・パソコン要約筆記>

年度初めの説明会やテイク養成講座には、聴覚障害学生にも参加してもらい、情報保障への相互理解を深めている。

### <手話通訳>

講義終了後に毎回、聴覚障害学生を交えて反省会を行い、専門用語の決定・確認など、大学講義特有の通訳方法を検討し、技術向上に努めている。

## サービス向上を目指して

学生のテイクカーは卒業し入れ替わってしまうので、新規のテイクカーの募集にも力を入れている。その際、学生の協力を得て勧誘・紹介をしてもらうなど、学生同士のつながりも大切にしている。  
ノートテイク、パソコン要約筆記、手話通訳いずれにおいても、技術向上のため、研修会を頻繁に開催することが課題である。

## 問い合わせ先

学務部学生支援課  
（電話 027-220-7136 / FAX 027-220-7620）  
障害学生支援室  
（電話&FAX 027-220-7114）



# 静岡福祉大学

## 静岡福祉大学短期大学部

● **支援組織名称** 静岡福祉大学学生総合支援センター内  
障害学生支援室

● **スタッフ** 教員 6 名、職員 1 名

聴覚障害学生	(注)	学部生	(注)
		院生	
視覚障害学生	(注)		
肢体障害学生	(注)		

注：個々の障害形態と学生数についてはプライバシー保護のため原則として公表していません。

設置形態	私立大学
学生数	980 人（2009 年 9 月 30 日現在定員）
所在地	〒425-8611 静岡県焼津市本中根 549 番 1

学内支援組織図 学生総合支援センター内  
障害学生支援室（各学科教員及び職員より構成）

### ノートテイク（手書き）・パソコンノートテイク

提供しているサービス	◎ノートテイク（手書き） ◎ポイントテイク（手書き）※ ◎パソコンノートテイク		
利用者数	(注)	学部生	(注)
		院生	
ノートテイク数	21 名（NT 17 名／PC 4 名）		
サービス提供時間数	週 51 コマ		
報酬および経費	1,000 円／時間（＋交通実費）		
募集方法	学内外の掲示板にノートテイク募集案内を掲示。		
コーディネート方法	学生教務課職員が連絡調整を担当し、障害学生支援室が協力。		
養成方法	「パソコンノートテイクの技法」（半期 2 単位）を開講するほか、本学教員主宰のノートテイク勉強会を開催。		
本学ノートテイク・パソコンノートテイクの特徴	・本学教員が監修した専用ソフト「まあちゃん」を活用。 ・聴覚障害学生にとどまらず視覚障害、肢体不自由学生等も利用する。		

※ポイントテイクとは、聴覚障害以外の障害学生を対象に、板書の筆写、重点項目の筆記等、授業で伝達される情報のうち、ポイントに絞ったノート記録を指す。

### Check!

障害学生支援室では、「障害のあるなしにかかわらず、ともに社会参加できる」教育環境を実現するための役割を担います。そうした環境を通じて私たちは、学生が本校を卒業したとき自らに必要な支援とは何か、第三者に説明し、主体的に最適な環境を作り上げていくことができるような方向を目指します。当事者によるセルフマネジメントの力をつけること、それは本学が掲げる「福祉力」の向上にもつながります。

## 文部科学省科学研究費補助金を活用した支援の構築を計画

文部科学省科学研究費（基盤研究 B）を活用し、2009 年度から 2013 年度の 5 か年を通じ、「高等教育機関における障害学生『情報コミュニケーション』支援システムの構築」（研究代表者：太田教授）を研究課題として実施中である。支援方法であるノートテイクを聴覚障害にとどまらず、視覚障害、肢体不自由を含む障害学生の情報バリアフリーシステムとして位置づけ、障害種別を超えた総合的な支援を模索している。

### 手話通訳

利用者数	(注)	学部生	(注)
		院生	
手話通訳者数	地域の公的派遣制度（公費派遣と本学費用負担派遣を併用）を活用		
サービス提供時間数	週 1～9 コマ（週によって異なる）		
報酬および経費	（公的派遣基準）		
募集方法	市（本人が申込）及び県（大学が申込）に依頼。		
コーディネート方法	学生本人、学生課職員、障害学生支援室長が公的派遣機関に依頼。		
養成方法	（手話通訳の養成はしていない）		
本学手話通訳の特徴	聴覚障害学生の要望に添って、ノートテイクと手話通訳を使い分けている。とくに手話を母語とする「ろう学生」の場合、利用を認めるよう本学としても努力している。また演習等、授業形態を勘案し、手話通訳を活用している。		

**サービス向上を目指して：**ノートテイクとは、教育機関において、教育の目標に到達する機会をすべての生徒および学生に対し保障する「合理的な配慮」の一つであり、障害のあるなしにかかわらず、すべての生徒および学生の学習ニーズを公平に充足する方法として位置づけられ、主に聴覚に障害のある生徒および学生を対象とした、音声情報を文字情報に変換し、学習権ならびに情報アクセス権を保障する目的で提供されるところの個別の対人サービスである。（太田）

参考資料 <http://www.suw.ac.jp/>

問い合わせ先：静岡福祉大学 事務部入試広報室  
TEL054-623-7451 FAX054-623-7453  
E-mail siryo@suw.ac.jp

# 愛知教育大学

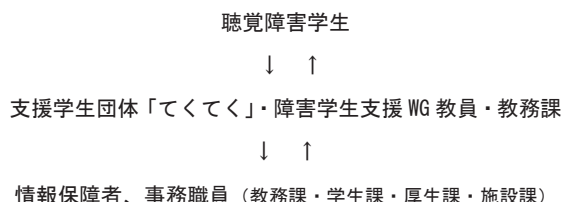
● **支援組織名称** 障害学生支援ワーキンググループ (WG)  
情報保障支援学生団体「てくてく」・教務課

● **スタッフ** WG 教員 5 名・「てくてく」スタッフ、教務課職員

聴覚障害学生	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
視覚障害学生	1 名		
肢体障害学生	0 名		

設置形態	国立大学法人
学生数	4274 名 (学部 3900・大学院・340 専攻科 34)
所在地	〒448-8452 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1 (名鉄本線「知立駅」より名鉄バス 20 分)

## 学内支援組織図



## パソコンテイク・ノートテイク

提供しているサービス	パソコンテイク・ノートテイク		
利用者数	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
ノートテイク数	69 名 (実働: 47 名)		
サービス提供時間数	週 23 コマ (内 NT 1 コマ)		
報酬および経費	2800 円 / 1 コマ (90 分) (支援学生 1 名につき 1400 円支給。各講義 2 名配置。)		
募集方法	(PC) 新年度のガイダンス等で、全学的に有志の学生を募集している。 (NT) 専門性を必要とする英語・数学・理科等の講義は、関係する講座の教員に専門性の高い学生を推薦・紹介してもらっている。		
コーディネート方法	学生コーディネーターが、聴覚障害学生のニーズを把握し、各種配置、コーディネート業務を行っている。		
養成方法	学期の始めに、情報保障担当者の説明会を実施している。また、週 2 日・昼休みを利用して、連絡および研修する場を設けている。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	携帯連絡システムによる情報交換・中間・事後報告会等の実施を重ねながら、量的・質的向上を図りたい。		

## その他の支援

学外手話通訳者の派遣	授業の形態によって、PC ノートテイクでは対応が難しい場合は、学外手話通訳者の派遣を依頼している。(10000 円 / 1 コマ (90 分)、通訳者 1 名につき 5000 円支給。2 名配置。)
視聴覚教材の字幕作成	講義で視聴覚教材を使用する場合は、事前にメディアを借り、字幕付けの作業を行っている。
音声認識システムを用いた支援学生の負担軽減	市販の音声認識ソフトウェアを、主に視聴覚教材の文字起こし作業に利用している。
式典、各種説明会での情報保障	式典や、大学が主催する講義以外の各種行事 (教務ガイダンス、オープンキャンパスなど) で、主にパソコンノートテイク・手話通訳による情報保障を行っている。
無線 LAN を用いた離れた場所での情報保障	講義中、支援学生が常に隣にすることは、聴覚障害学生にとって心理的な負担となる場合があり、要望があれば、教室内の離れた場所で、入力支援を行う環境を準備している。

## Check!

学生のノートテイク・パソコンノートテイク、学外手話通訳者による情報保障

## 聴覚障害学生の充実した学生生活の支援

- (1) 情報保障学生団体「てくてく」の活動 全学的に約 70 名の学生が支援活動に係わり、聴覚障害学生とともに学内の支援に関して情報交換・研修を行っている。
- (2) 他大学の支援活動 東海地区の各大学より要請があれば研修会を開催し、本学の支援活動のノウハウを紹介している。
- (3) 様々な聴覚障害学生の支援
  - 1) 講義保障 ノートテイク、パソコンテイク、手話通訳による支援が、聴覚障害学生のニーズに応じて実施されている。
  - 2) 講義以外の情報保障 入学式・卒業式などの各種行事、各種実習、ガイダンス時の情報保障も実施している。
  - 3) 教育実習での配慮 聴覚障害学生の小学校教育実習は、附属小学校又は通常小学校での実習を、県内聾学校の小学部実習に振り替えることができる。

## サービス向上を目指して

- ・聴覚障害学生は、特別支援学校教員養成課程に在籍しているため、同課程内の聴覚障害学生の各種支援に関する問題意識が高いこと等、恵まれた環境にある。
  - ・情報保障者が担当できる時間帯などに制約があり、一部の学生に作業が集中するといったことが生じている。
- 課題を整理し、よりよいサービスを目指していきたい。

**参考資料** 「愛知教育大学 障害学生支援ガイド」  
「愛知教育大学 聴覚障害学生の情報保障 教員用ガイドブック」  
「愛知教育大学 保障団体『てくてく』 リーフレット」

**問い合わせ先** 愛知教育大学 障害児教育講座  
都築 繁幸 e-mail: stsuzuki@aecc.aichi-edu.ac.jp  
岩田 吉生 e-mail: yiwata@aecc.aichi-edu.ac.jp



# 日本福祉大学

- **支援組織名称** 日本福祉大学障害学生支援センター  
URL <http://www.n.fukushi.ac.jp/shiencenter/index.htm>
- **スタッフ** センター長 1 名 センター教員 1 名、  
専任職員 1 名、委託職員 3 名

聴覚障害学生	47 名	学部生	47 名
		院生	0 名
視覚障害学生	13 名		
肢体障害学生	59 名	その他	26 名

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	■ノートテイク■パソコンテイク		
利用者数	32 名	学部生	32 名
		院生	0 名
ノートテイク数	ノートテイク 98 名 パソコンテイク 48 名		
サービス提供時間数	テイク 1 名あたり週 3 コマまで		
報酬および経費	ボランティア（奨励金支給）		
募集方法	入学当初のオリエンテーションやボランティア論等の講義で聴障学生が呼びかけ。各自が掲示板に募集ポスターを掲示。障害学生支援センターのボランティア登録者へ依頼。		
コーディネート方法	聴覚障害学生自身が直接依頼するか、障害学生支援センターからボランティア登録者へ依頼する		
養成方法	ボランティア実践基礎講座（外部講師）ノートテイク相談会、ボランティア講座（学生主催）、サークルによる練習など。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	複数の聴覚障害学生が受講している場合は、OHC を利用。設置は障害学生支援センターで実施。経験ある学生と障害学生が学生スタッフとして、運営・指導に協力		

設置形態	私立大学
学生数	5500 人（院生、通信を含むと 12,264 人）
所在地	〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田

### 学内支援組織図

障害学生支援センターは全学学生支援機構の一機関

障害学生支援センター運営委員会（各学部の教員、教務・就職関係職員、学生生活センター職員で構成）

## ともに考える支援

障害学生支援センターの設置	学習支援や生活支援の方法は、障害学生・支援学生・教職員が一緒に考えます。 障害学生の生活から、ボランティア活動支援まで、障害学生支援センターがさまざまな相談に応じています。
入学式での手話通訳者設置	入学式、卒業式、全学的な講演会、受講ガイダンスなどで設置
磁気ループの敷設	大講義室の全教室（1～5号館）、1101教室、文化ホール、図書館 AV ホール、半田キャンパス 101 教室
字幕	講義に利用する VTR について、学生サークル「くまじ」が字幕デコーダーを利用して字幕を付けている。字幕が間に合わない場合には、ボランティア登録学生が分担して、音声文字化し、プリントアウトして障害学生に渡す
手話通訳設置研究	一部のゼミで手話通訳派遣研究を実施（1998 年～）

## 支援サークルの活動

### 学生が「ともに学び、ともに育つ」

- ・点訳サークル「にゅーてんてん」…講義資料等の点訳
  - ・音訳サークル「ふきっこ」…資料の音訳、読み聞かせ
  - ・字幕づけ「くまじ」…教材 VTR の字幕づけ
  - ・パソコンテイク「PCT」…パソコンテイク
  - ・学生スタッフ…ノートテイク初心者への指導、機材のセッティング、ボランティア講座への協力、ボランティア団体の連携支援
- ※聴覚障害者団体や視覚障害者団体も、障害学生支援センターの事業に協力しています。

### 参考資料

障害学生&サポート学生のためのキャンパスガイド、  
障害学生支援センター年報（当センター発行）

### 問い合わせ先

日本福祉大学障害学生支援センター  
TEL: 0569-87-2432 FAX: 0569-87-2239  
Email: support-c@ml.n-fukushi.ac.jp

# 同志社大学

●支援組織名称 障がい学生支援室（事務局：京田辺校地学生支援課）  
URL <http://www.doshisha.ac.jp/students/support2/shogai/>

●スタッフ 職員6名（うち手話通訳者1名）

聴覚障がい学生	45名
視覚障がい学生	15名
肢体障がい学生	22名
内部障がい学生	7名

設置形態	私立大学
学生数	26,865人（2009年5月1日現在、大学院生含む）
所在地	〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3（京田辺校地） 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入（今出川校地）

学内支援組織図



## ノートテイク・パソコン通訳

提供しているサービス	ノートテイク（NT）、パソコン通訳（PC）		
利用者数	10名	学部生	9名
		院生	1名
ノートテイク者数 パソコン通訳者数	春学期：44名 秋学期：38名 春学期：164名 秋学期：158名 （登録者数：223名）		
サービス提供時間数	春学期：週104コマ（NT22コマ/PC82コマ） 秋学期：週98コマ（NT19コマ/PC79コマ）		
報酬および経費	880～1012円/時間（大学経費）		
募集方法	掲示板・立看板・HP・学生支援課企画の映画や大型ビジョンによる募集		
コーディネート方法	障がい学生支援室のコーディネータが障がい学生の相談窓口となり支援スタッフの募集・養成・派遣・相談等調整を担当。障がい学生在籍学部事務室を始め全学的に入学前から連携をとり対応。		
養成方法	前期、後期にノートテイク・パソコン通訳事前勉強会・入門講座を開催。その他、随時希望があれば対応。		
本学ノートテイク・パソコン通訳の特徴	学期末に懇談会の実施。学際科目として夏期集中講義「心のバリアフリー」をめざして一障がい学生支援を起点として一を開講（単位付与）。		

## ビデオ文字起こし・字幕付け

利用者数	7名	学部生	7名
		院生	0名
字幕付け数	27本		
報酬および経費	880～1012円/時間（大学経費）		
募集方法	掲示板・立看板・HP・学生支援課企画の映画や大型ビジョンによる募集		
コーディネート方法	学生支援課の障がい学生支援コーディネータが窓口となり、利用学生を含めて相談の上、派遣。		
養成方法	勉強会を適宜実施。		

## 手話通訳

手話通訳についても対応しております。

Check!

全学的な組織による講義保障！  
（学生同士の関わりの中で育む制度）

## コミュニケーション・デバイトの克服

障がい学生のみではなく、支援スタッフにも着目し、学生同士の関わりの中で自然に手をさしのべられるような大学を目指す。

具体的な場の設定・・・2009年度

・ランチタイム手話勉強会

聴覚障がい学生を囲みランチをとりながらの勉強会

・Challenged キャンプ（2泊3日 滋賀県）・・・2009年度

聴覚障がい学生と共に音声を出さないでショートトリップ等、サポートするされるという枠を超えたキャンプ

・「心のバリアフリー」をめざして一障がい学生支援を起点として一（学際科目）

主として聴覚障がい学生の講義の実際を理解し、「コミュニケーションのバリアフリー」をキーワードとして、障がい学生とそれを支援するスタッフ双方の気づきに着目しながら、自律的な成長の実現を目指す。

## サービス向上を目指して

約27,000人の学生が在学している中で、障がい学生支援スタッフは1%にも満たない状況となっている。合格者の第一次手続き者への郵送物に「障がい学生支援制度—案内パンフレット—」を封入し、全教職員に「障がい学生支援制度—教職員のためのガイド—」を配布しているが、もっと身近な取り組みとしてサポートを行えるよう、啓発していかなければならない。また、障がい学生の就学支援についてもキャリアセンターと共に取り組んでいる。

### 参考資料

障がい学生支援制度—案内パンフレット—

### 問い合わせ先

学生支援センター 京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室  
tel 0774-65-7411 fax 0774-65-7024



# 立命館大学

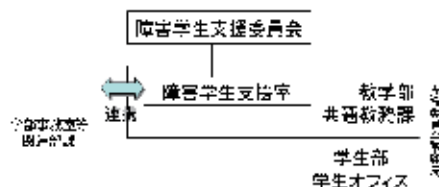
●支援組織名称 立命館大学障害学生支援室

●スタッフ 専門契約職員 2 名、学生スタッフ 92 名

聴覚障害学生	5 名	学部生	5 名
視覚障害学生	6 名	院生	0 名
肢体障害学生	11 名		

設置形態	私立大学
学生数	35,600 人
所在地 (法人本部)	〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀 1

学内支援組織図



## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記、手話通訳、ループ使用等		
利用者数	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
ノートテイク数	30 名		
サービス提供時間数	週 15 コマ		
報酬および経費	800 円/時間 (1 コマあたり 2 時間)		
募集方法	入学時ガイダンスにて説明、入学時に募集チラシを配布。専門性の高い授業の場合は教員・学部事務室を通して募集。最近是人づての紹介が多く募集はしていない。		
コーディネート・養成方法	障害学生支援室にてノートテイク講習を実施。学部・語学など属性に合わせてコーディネート。その際、学生コーディネーターが活躍している。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	ノート・パソコンテイクだけでなく、手話、教員の話し方、席の配置、機器の使用などを組み合わせて、最適な方法を追求している。		

Check!

### 全学受付窓口の設置

障害学生・支援学生スタッフ・教員・職員の一貫受付窓口設置 (障害学生支援室)

## その他の支援

入学式・卒業式での配慮	希望に従って、手話通訳、車椅子の誘導、ガイドヘルプなどを配置。
視覚障害学生の授業支援	教材加工、映像解説、代読、代筆、試験時の点訳・墨訳等
肢体不自由学生の授業支援	ポイントテイク (ノート作成)、介助、定期試験時の配慮等
専用パソコン室の設置	肢体不自由学生用 (音声入力ソフト・トラックボールマウス等)、視覚障害学生用 (音声読み上げソフト、点訳ソフト、点字プリンタ、拡大読書器) の機器を設置、支援室開室時にいつでも使えるように整備。
休憩室の設置	肢体不自由学生用休憩室 (ベッド、空調、ソファ設置)
学生ルームの設置	学生スタッフの活動拠点となる学生ルームを障害学生支援室横に設置。障害学生との交流の場としても活用されている。
教員への配慮文・手引きの配布	授業担当教員に配慮文・手引きを配布し、随時障害学生支援室にて教員のサポートを行っている。
講習会開催	ガイドヘルプ、音読、テキスト校正、ノート・PC テイク、介助等の講習会を年 10 回以上開催。

## 学生スタッフ

立命館大学では、従来からボランティアとして障害学生を支援してきた学生と、各種講習会に参加した学生が中心となって、障害学生の支援を行っています。

特徴としては、学生のコーディネーターが、シフト組みや障害学生・支援学生のメンターの役割を担っています。

彼らの高いモチベーションを、より障害学生の支援と、学生スタッフ自身の成長につなげることが出来るような仕組みづくりに取り組んでいます。

### 取り組み

★ 各種講習会の実施  
ガイドヘルプ講座、ノートテイク講座、テキスト校正講座、映像解説講座など

★ 密な連絡体制  
ミーティング、メーリングリストなどで活動状況を把握、連絡体制を取っています。



### 参考資料

障害学生支援ガイド

HP <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/ac/kyomu/drc/>

### 問い合わせ先

立命館大学障害学生支援室

Tel 075-465-1952 Fax 075-465-1982

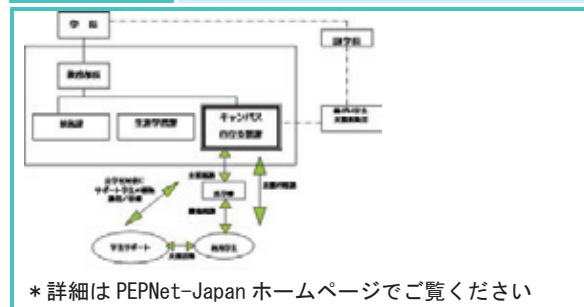
E-mail [drc@st.ritsumeai.ac.jp](mailto:drc@st.ritsumeai.ac.jp)

# 関西学院大学

- **支援組織名称** ・教務部キャンパス自立支援課  
・障がい学生支援委員会
- **スタッフ** コーディネーター 2 名、スーパーバイザー 3 名  
コーディネーター 2 名を含め、職員は 5 名

聴覚障害学生	8 名	学部生	8 名
		院生	0 名
視覚障害学生	5 名（学部生 4 名：重複 1 名含む 院生：1 名）		
肢体障害学生	19 名（学部生 14 名、院生 5 名）		

設置形態	私立大学
所在地	（上ヶ原キャンパス）〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155  （神戸三田キャンパス）〒669-1337 兵庫県三田市学園 2-1



## ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	■ノートテイク ■パソコンテイク		
利用者数	4 名	学部生	4 名
		院生	0 名
ノートテイク数	105 名（NT 70 名/PC 35 名）		
サービス提供時間数	週 34 コマ（NT 16 コマ/PC 18 コマ）		
報酬および経費	1000 円/時間		
募集方法	募集ポスター・チラシ・立て看板・大学の HP により募集。すでに参加している学生による口コミも活用。		
コーディネート方法	コーディネーターが、ノートテイクの配置・連絡・調整を担当。ML を活用し、代理テイクの確保・連絡等を行っている。		
養成方法	ノートテイク・パソコンテイク養成講座（6 時間）を前期・後期に実施。（コーディネーターが講師。聴覚障害学生や先輩テイクも講師として協力）。中間ミーティングで各授業支援方法を見直し、改善案をその学期に活かす。		
本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴	ノートテイクは主筆と補助に分かれ交代で行う。補助は A4 半分サイズの用紙を活用し、授業のポイントや瞬時に伝える必要があることを書き止め、主筆が書き漏らした点を補う体制を取っている。パソコンテイクは、パソコンテイク 2 人に手書きサポート 1 人を加えた 3 人体制で実施している。学期末にはアンケートを実施し、毎学期末ごとに意見交換会の場を持ち、制度運営の見直しを行う。		

## その他の支援

入学式での手話通訳者設置	該当者がある場合には実施する。手話が利用できない場合は、ノートテイク/パソコンテイクで対応する。
キャリアガイダンスへの手話通訳・ノートテイク・パソコンテイクの派遣	本人からの依頼があった場合は派遣する。
磁気ループの敷設	設置している（一部の教室は除く）。
字幕デコーダーの設置	音声情報の文字起こし、さらに字幕付けを行っている。

### Check!

#### 2つのキャンパスへの細やかな支援

上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパスにコーディネーターが勤務しています。

### 参考資料

関西学院大学（教務部キャンパス自立支援課）  
キャンパス自立支援について  
<http://www.kwansei.ac.jp/shien/>

### 問い合わせ先

教務部キャンパス自立支援課

上ヶ原キャンパス

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155

電話：0798-54-7264 FAX 0798-54-7044

E-mail: jiritsu-nuc@kwansei.ac.jp

神戸三田キャンパス

〒669-1337 兵庫県三田市学園 2-1

電話：079-565-7903 FAX 079-565-7929



# 金沢大学 大学教育開発・支援センター

●支援組織名称 大学教育開発・支援センター  
http://www.rche-kanazawa-u.jp/

●スタッフ 教員5名（専任職員0名）

聴覚障害学生	0名	学部生	0名
視覚障害学生	0名	院生	0名
肢体障害学生	0名		

設置形態	国立大学法人
学生数	10386名（平成21年5月1日現在）
所在地	〒920-1192 石川県金沢市角間町

障害学生支援委員会

教育担当副学長（委員長）

大学教育開発・支援センター長

保健管理センター長

学生部担当課長他

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコンノートテイク		
利用者数		学部生	
		院生	
ノートテイク数			
サービス提供時間数			
報酬および経費	900円/時間（学生部予算）		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。学内ポータルにおける募集。ランチョンセミナー（昼食時に開催）にて、説明会。		
コーディネート方法	共通教育科目（教養科目）に関しては共通教育学務係が、専門科目に関しては聴覚障害学生の所属している学類学務係が担当。		
養成方法	学外の講師によるノートテイク養成講座（障害学生支援委員会主催）を年度末に開催。支援学生がいる場合には、前期にも実施。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	近隣の他大学から依頼を受けて、ノートテイクによる派遣の実績有り		

## その他の支援

入学式での手話通訳者設置	学外組織に依頼
磁気ループの敷設	
字幕デコーダーの設置	

Check!

多様な障害に対する、研究に基づく  
有効な支援方を学内外に提言

## トピック

センター企画の1年前期共通教育科目「学生と大学システム」（自由履修）において、15回のうち2回、聴覚に障害のある社会人を手話通訳付きで講師としてお願いしている。授業情報保障が無かった大学での学生生活を振り返っていただき、聴覚障害学生にとって、大学での授業は情報保障がなければ、理解は不可能であることを語ってもらっている。

ノートテイクを、担当時間数に応じて、学長表彰および副学長表彰の対象者として推薦している。

学校教育学類の障害児教育担当教員との連携を図っている。

## サービス向上を目指して

支援対象学生がここ4年間入学してこないため、支援の方法について学生間での継続ができず、コーディネート担当職員についても移動により、ノウハウの蓄積が期待出来ないところに問題がある。日本学生支援機構の援助を得て、大学コンソーシアム石川加盟高等教育機関におけるノートテイクフル制度構築の試みを行ったが実現しなかった。

## 問い合わせ先

教育支援システム研究部門 担当：青野  
aono@sgkit.ge.kanazawa-u.ac.jp

# 広島大学

●支援組織名称 アクセシビリティセンター

●スタッフ センター長、教員 2 名、情報支援コーディネーター 1 名、事務職員 2 名、ティーチングアシスタント 4 名、学生インターン 20~30 名

聴覚障害学生	5 名
視覚障害学生	4 名
肢体障害学生	7 名
その他	2 名

## ノートテイク・パソコン要約筆記

募集方法	教養教育科目「障害学生支援ボランティア実習 A, B」を開講/電子掲示板にて全学生に募集アナウンスを行う
コーディネート方法	該当学部にて学生コーディネーターを選任。 「障害学生支援ボランティア実習 A, B」およびアクセシビリティセンターと連携してコーディネート。
養成方法	アクセシビリティ支援関連講義（教養教育 3 科目）の中で、筆記通訳、要約筆記の方法を指導。派遣のニーズに応じて、ノートテイク講習会を開催。アクセシビリティセンターで聴覚障害学生・ノートテイクの技術相談・ケアを行う。
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	教養教育科目「障害学生支援ボランティア実習 A, B」履修生（以下、実習生）は、支援活動に対して単位認定を、ボランティア登録学生等、実習生以外の形態で参加する学生には、社会貢献活動証明書を発行。

Check!

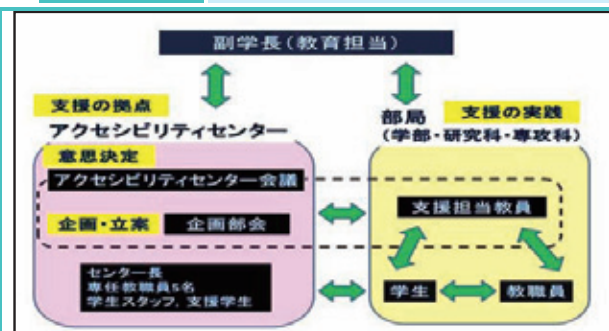
**入学前から卒業までの一貫した支援**  
全学体制、学生教職員一体型の授業支援

## アクセシビリティリーダー育成プログラム（H20 教育 GP 採択）



年齢や障害の有無、言語や文化の違い等の多様性に関わらず、誰もが製品やサービス、環境や情報の利便性を教授できる“人に優しい社会”をリードする人材、“アクセシビリティリーダー”を育成する教育プログラム及び資格認定制度を推進・展開。  
産学官連携の育成協議会を設立。

設置形態	国立大学
学生数	約 15000 人
所在地	〒739-8511 東広島市鏡山一丁目 3 番 2 号



## その他の支援

音声認識技術を活用した教育支援	ユニバーサルな教育支援として、音声認識技術を活用し、音声字幕付教材を作成（講義音声＋字幕＋プレゼン画面）。講義終了後、音声字幕付教材を WEB 配信。 リアルタイムの情報保障としてリスピーク方式を試行中。
卒業式での手話通訳	必要に応じて実施。
ビデオ教材の字幕作成支援	字幕台本を作成し、事前配布。授業中は必要に応じてノートテイクが台本の進行状況を伝える。教材によっては動画への字幕付与を行なう。字幕作成作業は実習生等が行う。
筆談ボードの設置	各学部の学生窓口に設置。
障害学生への窓口対応パンフレットの配布	各学部の学生窓口、保健管理センター、図書館の職員へ配布。
補聴システムの設置	赤外線と有線の補聴システムを活用。
学生情報システム（ホームページ）での情報提供	シラバスに視聴覚教材情報の詳細（ビデオ本数、時間）を提示。
手話講習会・要約筆記講習会の開催	毎年、前期と後期に各 1 回～実施。
アクセシビリティリーダー育成	アクセシビリティリーダー資格認定制度を実施。 学内と地域で、資格取得者のインターン制度（ALI）を展開し、支援の充実に図る。

### サービス向上を目指して

- ①知る機会、学ぶ機会の拡充  
「オンラインアクセシビリティ講座」の配信  
全学研修会、各種講習会の開催
- ②教育・人材育成の一環として、以下の科目を開講  
「障害者支援 ボランティア概論」  
「障害学生支援 ボランティア実習 A, B」  
「環境情報アクセシビリティ研究」
- ③ユニバーサルな教育支援方法の開発  
次世代の教育支援方法を積極的に模索（音声認識活用など）

### 問い合わせ先

アクセシビリティセンター  
TEL 082-424-6324, E-mail achu@hiroshima-u.ac.jp  
URL <http://www.achu.hiroshima-u.ac.jp/>



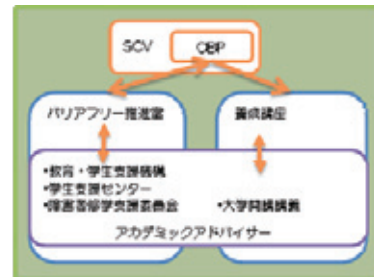
# 愛媛大学

- 支援組織名称（スタッフ数） バリアフリー推進室（3）  
 教育・学生支援機構 学生支援センター（4）  
 障害者修学支援委員会（9）  
 障がい学生支援ボランティア（Campus Barrier-free Promote）  
 （代表者8、登録者71）

聴覚障がい学生	4名
視覚障がい学生	1名
重複障がい学生	1名（大学院生）
肢体障がい学生	2名

設置形態	国立大学法人
学生数	9675人（大学院生・研究生含む）
所在地	〒790-8577 愛媛県松山市文京町3

## 学内支援組織図



## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ノートテイク</li> <li>■板書ノートテイク</li> <li>■パソコンノートテイク</li> </ul>
ノートテイク数	71名（NT 71名/PC 16名）
サービス提供時間数	1人週15コマ程度（NT 15コマ）
報酬および経費	900円/時間（障がい学生支援経費）
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。 入学式などで、活動紹介。
コーディネート方法	バリアフリー推進室の契約職員2名が支援分担任調整している。利用学生とテイクの調整を行う。出来る限り専門性、経験のある者を配置している。ノートテイクは1人の利用学生に対して2人つく事を原則としているが、一方を経験者にするなど、配置にはよりよいテイクの提供を心がけている。
養成方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 共通教育障害者支援ボランティアⅠ講座の集中講義（障害全般の概論28コマ）。</li> <li>2. 共通教育障害者支援ボランティアⅡ（ノートテイクのスキルアップを目的とした講義15コマ）</li> <li>3. バリアフリー推進室開講基礎講座（随時開講）</li> </ol>
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	障害者修学支援委員会とCBPによる運営。謝金等の資金提供は大学から提供している。

## その他の支援

入学式・卒業式の 情報保障	パソコン要約筆記と手話通訳を設置している。
字幕システム	日本語及び英語の音声変換システムを用いて、情報保障に対応できるシステムを構築している。
盲ろう学生への対策	盲ろう学生向けの電子資料作成を行っている。
アカデミックアドバイザー	学外からの専門委員として学生と教職員のFDを担当し、様々な問題解決にあたっている。
スチューデント・キャンパス・ボランティア（SCV）の協力	学生ボランティア（SCV）は9つのグループより構成されている。その中の障がい学生支援ボランティア（CBP）が情報保障を主な活動を担っているが、必要に応じて他の団体の協力を得ている。
支援機器の貸し出し	視覚障がい、聴覚障がい、肢体障がい、広汎性発達障がい等、多様なニーズに対応する生活支援機器の紹介、貸し出し、フィッティングを行っている。

## Check!

### 学生と教職員によるコラボレーション

学生ボランティアの主体的な活動が力に！

## 現状と今後の課題

- 愛媛大学での特色は大学組織である障害者修学支援委員会・バリアフリー推進室・学生ボランティア（SCV）のグループであるCBPによる多方向からなる支援が挙げられる。
- バリアフリー推進室とCBP代表者の会議を基に、学生ボランティアがそれに基づいた活動を展開している。利用学生やノートテイクの意見を大きく反映するとともに、双方の学生の育成に貢献することを目指している。
- 障害者修学支援委員会メンバーの構成は、専門教育者を中心に、関係学部から議題に応じて対応出来るメンバーで構成。
- 非常勤職員が、コーディネーター業務を担当するようになり、スタッフ学生の負担は軽減された。その分、支援学生に対してノートテイクや手話の技術などスキルアップ体制に力を入れられるようになった。
- 学生ボランティアの顧問は教職員とアカデミックアドバイザーが担っている。
- 幅広い障がい学生に対応できる支援システムに向けて学内全体で取り組みを行っている。

## サービス向上を目指して

- ・バリアフリー推進室、教育・学生支援機構、障害者修学支援委員会、CBPの協力体制をより強固にし、より充実した支援体制の確立を目指す。
- ・利用学生、テイクの問題点に早急に対応出来るよう、報告書の提出を義務化し、迅速なフィードバックが行えるようにする。
- ・利用者とテイク同士の自由な意見交換ができる環境を提供する。

参考資料 SCVに関する大学ホームページ

URL: <http://www.ehime-u.ac.jp/SCV/>

## 問い合わせ先

学生支援センター TEL: 089-927-8970

バリアフリー推進室: 太田琢磨・村上沙耶佳

TEL: 089-927-8114 FAX: 089-927-9171

E-Mail: [bfree@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:bfree@stu.ehime-u.ac.jp)

# 福岡教育大学

●支援組織名称 障害のある学生の支援懇談会

●スタッフ 学生生活課職員 2 名、コーディネーター 1 名 (非常勤)

聴覚障害学生	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
肢体障害学生	1 名		
その他	1 名		

設置形態	国立大学法人
学生数	学部 2866 人、大学院 186 人
所在地	〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町 1-1

学内支援組織図

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記		
利用者数	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
ノートテイク数	18 名 (NT 名/PC 18 名)		
サービス提供時間数	週 11 コマ (NT コマ/PC 11 コマ) 2 名とも FM 補聴器を装着。		
報酬および経費	760 円/時間 (共通経費)		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。		
コーディネート方法	学生生活課職員と学生とが連絡調整を担当。		
養成方法	ノートテイク講習会 4 時間 (2h×2 回) を前期・後期に実施。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴			

## その他の支援

入学式・卒業式での手話通訳者設置、字幕提示	有り (手話通訳士の資格を持つ教員が対応。字幕は学生による支援)
磁気ループの敷設	なし
聴力検査、補聴器の調整	言語聴覚士の資格を持つ教員が対応
FM 補聴器の貸出	FM 補聴器 4 台を準備

Check!

聴覚障害教育専攻があるため、専門的知識・技術を持つ学生が多い

## トピック

- 最初の支援は昭和 51 年度入学生から
- SCS 研修を利用して、国内の他機関との情報交換を行ってきた。  
<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~tomiohta/scsshien.htm>
- 国内外の先進的取り組みを行っている機関を 5 ケ国 20 ケ所以上訪問し情報収集に努めてきた。FD 報告書として発行  
「高等教育における障害のある学生への支援」(H19, 3) など  
<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~dohira/FD/>
- 中学や高校に在籍する聴覚障害児への支援について、福岡高等聾学校が 2005 年より行っている「聴覚障害学生情報サポート講習会」に実施協力している。今年度は遠隔情報保障 (筑波技術大学の協力による) を使用して熊本聾学校と中継を実施。
- ノートテイクを学んだ学生が、小学校や中学校の通常学級で学ぶ難聴児への情報保障にもボランティアで通っている。
- 日本学生支援機構の「障害学生修学支援ネットワーク」の拠点校にも選ばれている。今年度は「実習科目、外国語科目における聴覚障害学生への支援」についての委託研究で福岡大学と共同で研究
- 筑紫女学園大学、福岡大学の支援学生と合同研修会、合同合宿を実施。

## サービス向上を目指して

- ・授業担当者による視覚的情報や資料の準備がかなりの程度なされており、ノートテイクというよりも配付資料に補足説明等を書き込むことが多いが、より理解しやすい提示法や説明を行えるように FD 研修を実施したい。
- ・支援対象の授業の既履修者にノートテイクになってもらえるようにし、より容易に内容理解ができるようにしたい。
- ・聴覚障害学生への支援と配慮についての解説用 DVD を試作し 30 人以上の教員に視聴してもらい、効果や問題点を分析。
- ・支援組織や人材を充実させたい

## 参考資料

FD 報告書 (H14, H15, H16, H17, H18, H19, H20)

## 問い合わせ先

学生生活課 TEL 0940-35-1250, 特別支援教育センター  
太田 [tomiohta@fukuoka-edu.ac.jp](mailto:tomiohta@fukuoka-edu.ac.jp)



# 国立大学法人 筑波技術大学

－聴覚・視覚に障害のある学生のための高等教育機関－



本学は、我が国唯一の聴覚及び視覚に障害のある学生を対象とした4年制大学です。聴覚障害系の天久保キャンパスでは、聴覚に障害のある学生への情報保障に配慮した授業のための教育方法を研究開発しながら、教育を行っています。

専任教員による授業では、教員自身が手話や口話などの多様なコミュニケーションを用いることにより、学生と直接的なコミュニケーションをとっています。教員と学生との間のバリアのない意志の疎通は、他大学ではみられない特色です。手話を用いない非常勤講師による授業には、外部団体によるパソコン要約筆記や手話通訳を依頼しています。

## 聴覚障害学生のための情報保障及び学習支援

手話による授業



補聴に関する相談



情報保障者の配置



コミュニケーション指導



手話の学習支援

聴覚活用・手話・発話といったコミュニケーションに関する指導と支援を行っており、学外からの相談も受け付けています。

## 支援技術開発

情報保障機器の開発



字幕ビデオ教材の作成



先端技術を応用し、学習効果の向上を目指した障害補助機器やソフトウェアの開発、既存の評価等を行っています。

## 聴覚障害学生の大学生活状況

国際交流



サークル活動



寄宿舎生活



〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15  
TEL: 029-852-2931 (代表) FAX: 029-858-9312  
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/>



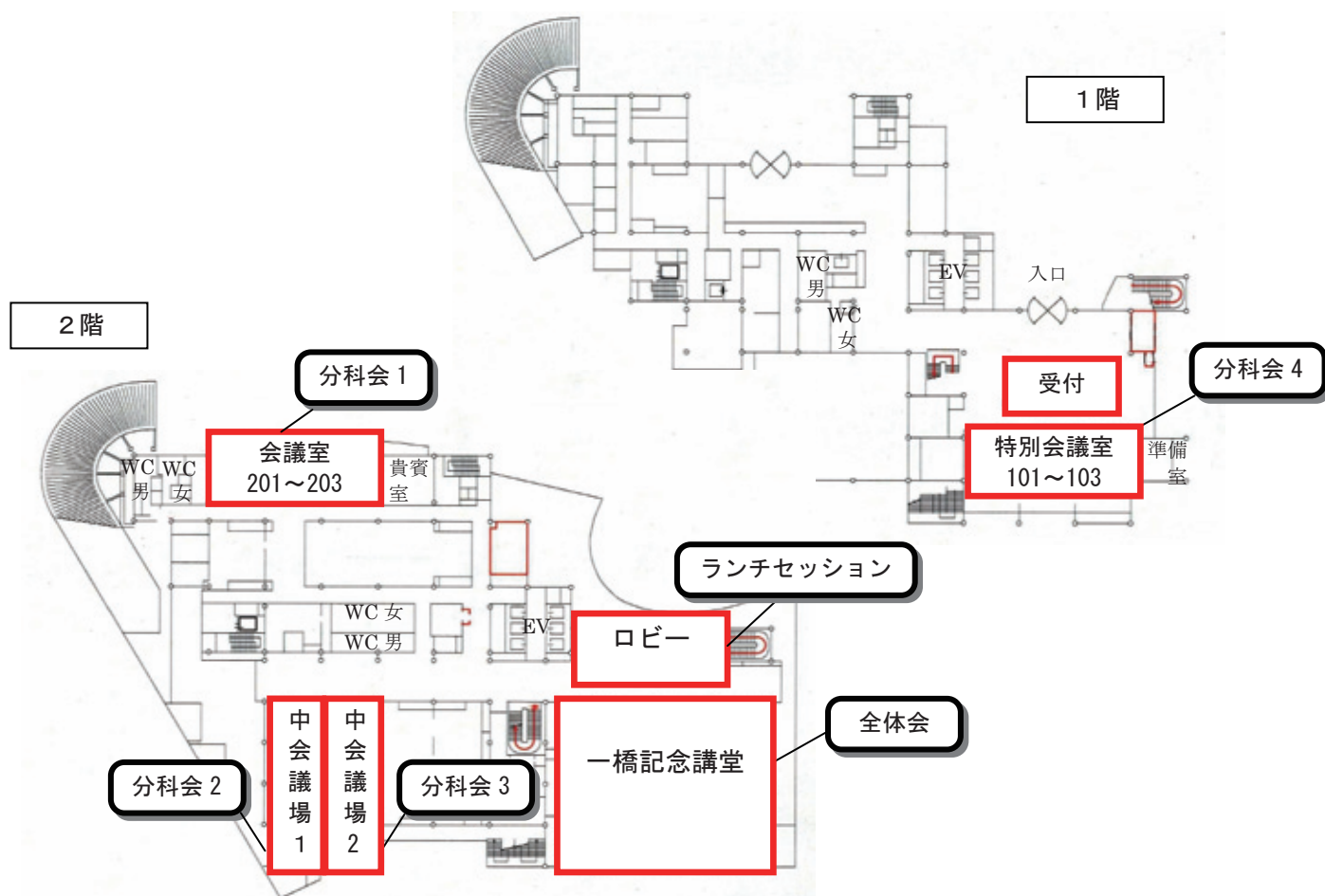
国立大学法人

筑波技術大学

## 会場案内



時 間	内 容	会 場
10:00～12:00	分科会 ① 「基礎講座 - 1 からわかる聴覚障害学生支援入門-」 ② 「教職員に対する 障害学生支援の理解向上のために」 ③ 「コーディネーターの専門性と身分保障」 ④ 「支援学生のスキルアップ - 聴覚障害学生のニーズに応えるために-」	会議室 201～203 中会議場 1 中会議場 2 特別会議室 101～103
12:00～14:00	昼食 ※ロビー及び一橋記念講堂でのご飲食はできません。 分科会各会場をご利用ください。 また、建物の外に出られる場合、再入場に本シンポジウムの チラシ等が必要になりますのでご注意ください。 ランチセッション 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 聴覚障害学生支援に関する機器展示	会議室 201、202 中会議場 1 中会議場 2 特別会議室 101～103 2 階ロビー
14:00～17:00	全体会 パネルディスカッション 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト結果発表	一橋記念講堂







# 聴覚障害学生支援に関する 実践事例コンテスト 発表内容紹介



## 札幌学院大学 サポートデスク

私たちサポートデスクは学生で構成された ICT<sup>(情報通信技術)</sup> サポーターです。  
電子計算機センターに S E や職員と常駐し、『パソコンに関する相談』や  
『講義の教材制作』など学生・教員のコンピュータ利用を支援しています。

### サポートデスクの業務内容とは？

- 情報関連科目受講生のサポート
- パソコンの環境整備
- office 利用のレクチャー
- 講義の撮影
- 教材の電子化

### ● 字幕入り映像教材作成



学内パソコンの清掃



講義について教員との会議



勤務中のスタッフ



字幕についての会議の様子

これは聴覚障がいを持つ学生を対象にした支援です。

講義などで使用される映像教材(1本、約10分～30分程度)の音声情報を文字化し  
字幕として挿入・編集することで、音(声)が十分に聞こえないというハンデを持っ  
た学生の情報保障を実現しています。

#### 問い合わせ先

札幌学院大学 電子計算機センター 松本涼子  
〒069-8555 北海道江別市文京台11番地

TEL011-386-8111(代表)

e-mail matumor@ims.sgu.ac.jp



## 字幕入り映像教材利用者の生の声

私たちは字幕入り映像教材を制作していくにあたり、利用者が理解しやすい映像を作成するには一定の完成度を保つことが必要だと気付きました。

完成度を保つためには、利用者の生の声を聞く必要があると考え、**アンケート**の実施や**意見交換会**を開催しました。

この様にして得られた意見・回答を十分に活かした独自の**サポートデスク字幕ルール**を作成しました。

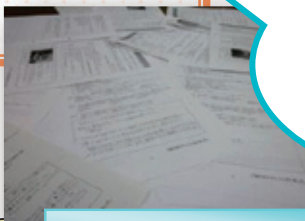
### アンケートの意見の一部

後ろの席にも見やすいように、字を大きめに、また背景の色に合わせて字の色を変えてほしい。

字幕を付けることは簡単ではないと思いますが、とても感謝しています。ありがとうございます。



意見交換会の様子



収集されたアンケート

字幕入り映像利用者

聴覚障がい学生

聴覚障がい支援団体

字幕入り映像の利用

意見・要望は  
**アンケート・意見交換会**  
によって直接収集

サポートデスク

字幕入り映像への  
意見・要望をスタッフが

**ルール化**

## サポートデスク字幕ルール

### ☆行数・文字数☆

1行15文字程度基本的に1、2行。

### ☆「→」は続く☆

台詞が長い場合は「→」を使用して続くことを知らせる。

### ☆「、」「。」☆

「、」は使用せずスペース（全角）を代用。  
文の終わりは「。」「!」「?」など必ずつけます。

※ルールは一部ですので詳しくは本学のグッス部門の作品をご覧ください。

次から作成する字幕映像教材は改正された  
「サポートデスク字幕ルール」を基に作成されます。



### 問い合わせ先

札幌学院大学 電子計算機センター 松本涼子

〒069-8555 北海道江別市文京台 1 1 番地

TEL011-386-8111(代表)

e-mail matumor@ims.sgu.ac.jp

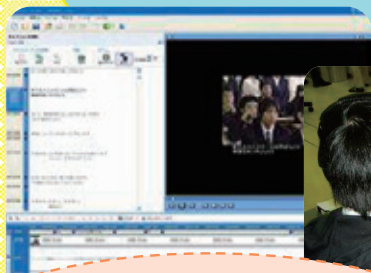
## 字幕入り映像ができるまで



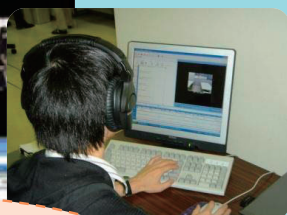
① メディア媒体(VHS、DVD など)から映像をパソコンに取り込みます。



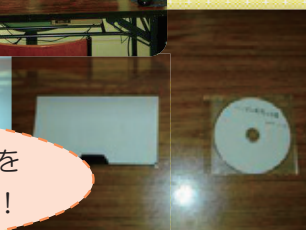
②取り込んだ映像の音声情報を 字幕ルールに沿って字幕に変換します。



③文章にしたデータを動画編集ソフトで編集し、映像に字幕を挿入していきます。



④できあがった映像をDVDに焼き直し、完成！



### サポートデスクの字幕サービスの実績

- ◆ 2008 年前期字幕作業についての検証、タイピング訓練。
  - 同年後期、字幕サービススタート。作業初期の3ヵ月で60本の字幕挿入を行う。
- ◆ 2009 年 2 月、第 1 回意見交換会を開催。
  - 同年 2、3 月朝日新聞、北海道新聞にサポートデスクの取り組みが掲載される。
  - 同年 5 月雑誌、螢雪時代(09/6 月号)にサポートデスクの活動が取り上げられる。
  - 同年 6 月、第 2 回意見交換会を開催。

#### 問い合わせ先

札幌学院大学 電子計算機センター 松本涼子  
〒069-8555 北海道江別市文京台 1 1 番地

TEL011-386-8111(代表)

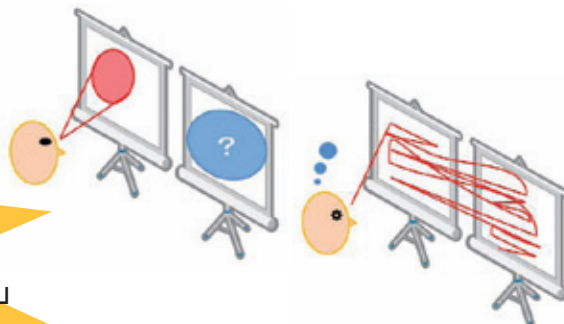
e-mail matumor@ims.sgu.ac.jp



# 宮城教育大学 しょうがい学生支援室

## 聴覚障害学生だけの苦勞なんてもうイヤ！

- 「スライド・ビデオや文字通訳の字幕のどれかに注意を向けるため、もう一方の情報は見れない！」
- 「両方のディスプレイに視線を何度も往復するから、目がすっこく疲れる！」
- 「タイムラグがあるから、それぞれの内容はどういう関係があるのか自分が考えないといけなくなるからまいっちゃうよ。」
- 「長時間見るくらいなら、印刷した資料をもらったほうがまし。」



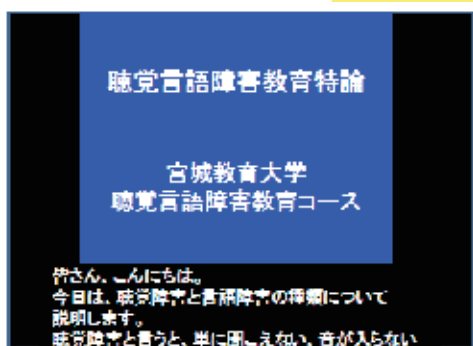
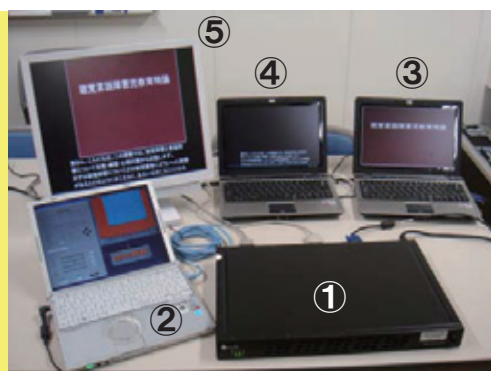
## 「画面分割機」なら…と思ったけど、制約が多すぎて不便！

(例えば、分割しても画面が勝手に伸びてしまう、2分割・3分割と固定してて不便)

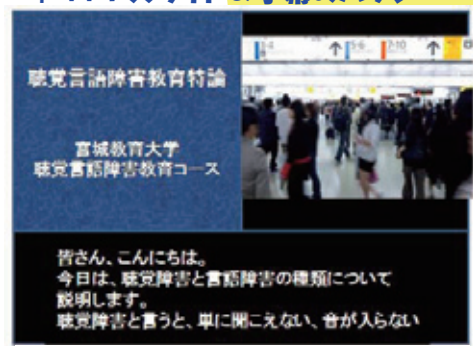
## 複数の画像のサイズや位置を手軽に変更できるディスプレイシステムを作ろう！

＜使用した備品＞

- ①ディスプレイプロセッサ
- ②ディスプレイプロセッサをコントロールするパソコン
- ③ビデオ・スライド（パワーポイント）を操作するパソコン
- ④文字通訳で訳出した字幕を表示するパソコン
- ⑤③と④のパソコンの画像を表示するディスプレイ



↑ PPT スライド&字幕のパタン



↑ スライド&ビデオ&字幕のパタン

例えば、左図のように自由に調整できる！



②の画面  
専門知識がなくてもコントロールパネルを使って手軽に変更できる！

聴覚障害学生の声

Aさん「前よりキョロキョロ視線が定まらない状態があまりなくて良かったです。」

Bさん「印刷資料を使わなくても安心して見られたし、首もつかれなかった。」

Cさん「同時に見ることができた！」



問い合わせ先

特別支援教育講座 聴覚・言語障害教育コース 准教授 松崎 丈  
しょうがい学生支援室 聴覚障害専門部会委員 e-mail [joemk@staff.miyakyo-u.ac.jp](mailto:joemk@staff.miyakyo-u.ac.jp)

## 東北福祉大学 障がい学生サポートチーム テイク☆テイク

★ 現在、私たち学生が主体となって  
聴覚障がい学生の情報保障のために活動をしています

テイク☆テイクは障がい学生支援室と  
連携しながら、活動をしています。

### ☆ 2009 年度の新しい取り組み ☆

#### ノートテイク用

##### 手引きの作成

今年度初めて、テイク☆テイク  
スタッフで作成



#### 映像作成

ノートテイク説明会・養成講習会用  
に、聴覚障がい学生の生の声を  
撮って伝える



#### テイク☆テイクスタッフ用

##### マニュアルの作成

後輩たちのために、今までやってきた  
活動をまとめる

#### コマーシャル作成

テイク募集のため、学生課前・学食  
のモニターに流してもらう

年二回、交流会を  
開催します。  
(食べたり飲んだり  
ゲームしたり♪)



#### ノートテイクとは？

ノートテイクの様子！



聞こえない学生に、教員の  
話す内容や周囲の音声情報  
(学生の発言やチャイムの  
音など)を文字に書いて伝  
えます。

真ん中が聞こえない学生、  
両隣がノートテイクです

#### 問い合わせ先

東北福祉大学 障がい学生支援室

連絡先 TEL : 022-301-1291 FAX : 022-301-1293 E-mail : support@tfu-mail.tfu.ac.jp



# 千葉大学ノートテイク会

千葉大学ノートテイク会は平成21年度現在、利用学生2学部から2名、ノートテイク（以下：NTer）7学部（教育・工・文・看護・法経・薬・理）と学外から約50名で構成されています。コーディネーターは大学の非常勤職員が担い、毎週NTer募集メールが回ります。

利用学生1人に対しNTer二人体制で手書き又はPCで情報保障します。学生が主体となり、週に1度練習会を行っています。千葉大学の情報保障がさらに向上していくよう、日々頑張っています。

昨年度は利用学生4名に対し、NTer10名という状況でした。NTer不足が大きな課題であり、解決のためにさまざまなPR活動を行いました。その結果、今年度、多くの新NTerが増えました。そこで、PR活動の実践例・今年度充実させている活動を紹介します。

＊前期を通して講義を会で担当し、ノートテイクと情報保障について講義しました。

＜概要＞

- 聴覚障がい者の理解と情報保障
- ノートテイクの基本（手書き、PC）
- 聴覚障がいについて
- 手話通訳、要約筆記について
- 情報保障、福祉について
- 情報保障の技術、他大学のように

についてゲスト講師も招き、理解しました。  
受講生にノートテイクを体験してもらい、会の活動についてもPRしました。これをきっかけに入会したメンバーもいます！

## 練習会内容

- ・NTについての説明
- ・お互いの自己紹介をNT
- ・聴覚障害者体験  
（音楽の流れたヘッドフォンを付けて周りの音が聞こえないようにし、NTを利用する体験）
- ・会話のNT
- ・IPトーク体験、
- ・専門分野のNT等...



総合校舎の一部屋で活動しています。

- ・非常勤コーディネーターが週2～3日在室
- ・話し合い、交流会、勉強会の場
- ・参考の書籍、PCなど備品の置き場
- ・メンバーたちの団らんの場として使っています。



昼休みの風景

＜前期＞

＊PR活動実践事例＊

講義「ノートテイク～情報保障を考える～」

4月… 学部ガイダンスに参加

NT説明会で新入生勧誘

5月 通常のノートテイク活動

6月 定期的に練習会・話し合い・

交流会を実施

7月 NT講義の担当とサポート

※夏季休業※

＜後期＞

11月…大学祭参加 PR活動

（展示、ゲーム、ミニシネマ上映）

12月…学生団体の活動紹介イベント参加

1月 } 来年度の計画、反省

2月 } 1年間の活動のまとめ

3月…来年度のテキストづくりなど  
卒業生を送る会

◎今後の取り組み◎

- ・大学に働きかけ、ノートテイクの仕組みを充実。
- ・ノートテイク方法の意見交換をする場を設ける。
- ・ノートテイク同士の親睦を深める。
- ・講義に関する情報交換を定期的に行う。
- ・授業を行う教授、他の学生に情報保障について知ってもらう機会をつくる。
- ・ノートテイクの声を届ける場を設ける。
- ・より質の高い情報提供をめざす。

問い合わせ先 国立大学法人 千葉大学：〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学ノートテイク会 HP <http://ntkai.skr.jp/>

ノートテイク会メール [info@ntkai.skr.jp](mailto:info@ntkai.skr.jp)

## 群馬大学：iPhone を用いた情報保障の実践

### なぜ iPhone なのか？

- ・字幕表示と音声通話が同時に可能。
- ・遠隔地先での機材の設置が不要。
- ・移動しながらでも使用可能。



### こんな場面で使う！

- ・教室に PC を設置するスペースがない。
- ・移動が多い（体育など）。
- ・外での課外授業。

### 事例 1 動きを伴う実技の講義（体育館）での実践

- ・講義の内容を IPtalk が入っている PC で連係入力し、無線 LAN を通じて IPtalkBroadCaster (ITBC) で聴覚障害学生が持っている iPhone に字幕を送信した（写真 1）。
- ・FM トランシーバー（パナガイド[写真 2]）には受信機、送信機があり、送信機にはピンマイクが付いている。その送信機を教員に渡し装着してもらい（写真 3）、受信機は支援者の所に置き受信された音声を骨伝導ヘッドフォンで聴き取る。骨伝導ヘッドフォンを耳に近いところに当てマイクが拾った教員の声を聞き取り、耳で直接学生の声を聞き取る（写真 4）。

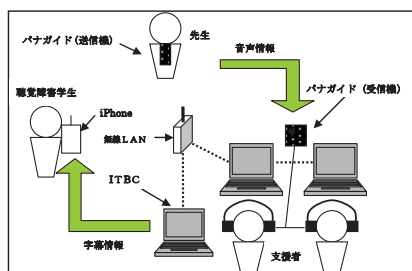


図 1. アイフォンを用いた PC テイク



写真 1



写真 2



写真 4



写真 3

### 結果

- ・実技の活動中でも字幕情報を自分の見たいときに見ることができ、通常の PC テイクと同様の情報量、正確性を確保した情報保障が可能になった。
- ・聴覚障害学生に情報を送るのに時間を要してしまうため、聴覚障害学生は活動内容を把握できていない状態のまま活動に入ることが多く主体的に参加することが難しかった。

### 事例 2 特別支援学校教育実習での実践

- ・教室が非常に狭く PC を置くスペースがないため、図 2 のように字幕作成のための別の教室を設けた。
- ・先生が Bluetooth マイクを装着し、聴覚障害学生が持つ iPhone の通話機能を利用して PC テイカーがいる教室にある iPhone に音声を送る方法を取り入れた（写真 5）。音声情報をスピーカーで聞き取り、IPtalk が入っている PC で連係入力し字幕を打ち込む（写真 6）。
- ・その字幕情報をソフトバンクのネットワークを通して ITBC で聴覚障害学生が持つ iPhone に送信する（写真 7）。

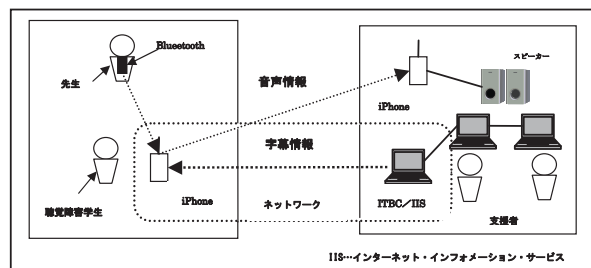


図 2. アイフォンを用いた PC テイク（ソフトバンクネットワーク）



写真 5



写真 6



写真 7

### 結果

- ・ソフトバンクのネットワークを利用することで安定して字幕情報を送信することができた。
- ・今までの情報保障では難しかった先生の声や子どもとのやりとりなどの細かい部分も字幕にして表示できるなど観察場面では有効であった。
- ・自分が指導する場面では、字幕情報を受け取るまでに時間を要してしまうため、主体的に動くには難しかった。

### <まとめ>

どちらの方法もタイムラグが生じてしまうため、字幕情報を得るのに時間を要してしまい、聴覚障害学生が主体的に動くことが要求される場面ではこの方法を用いても限界があることがわかった。しかし今までは手書きテイクでしか対応できなかった場面でも、iPhone を用いることで通常の PC テイクと同様の情報量、正確性を確保した情報保障が可能になったことは、聴覚障害学生にとって有益なことであると考えられる。

### 問い合わせ先

群馬大学教育学部障害児教育専攻 森田貴之 (taka2009morita@yahoo.co.jp)  
 群馬大学教育学部 金澤貴之 (kanazawa@edu.gunma-u.ac.jp)  
 群馬大学障害学生支援室 (a\_dis-support@ml.gunma-u.ac.jp)



## IPtalk を利用したチャット形式による情報保障

### グループ討議の情報保障

- ◆聴覚障害者と健聴者とがグループ討議を行うには手話や要訳筆記が必要であった。
- ◆今回ノートPCにIPtalkと無線LANを導入してチャット形式の情報保障を実施。

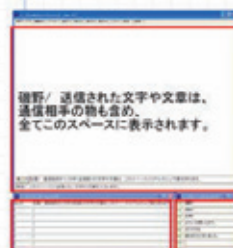


健聴者のみ



健聴者+障害者の場合

### IPtalkの表示画面



- ◆IPtalkの「メインモニター」討議参加者のコメントを全て履歴として表示
- ◆IPtalkは全員が入力中の文章をリアルタイムで確認
- ◆IPtalkでは、単語や文章を登録することができる

グループメンバーの名前を登録  
IPtalk : <http://iptalk.hp.infoseek.co.jp/>

### チャット形式のグループ討議の様子



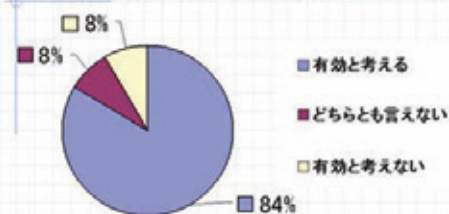
### チャット形式と口頭形式の比較

#### グループ討議の内容

形式	時間	ルール	議題	人数
チャット	10分	司会者が発言権を与える／自由に発言	地球温暖化対策	5人
口頭	10分	司会者が発言権を与える	就職活動	5人

◆参加者:5人(健聴者4名+聴障害者1名)

### チャット形式による情報保障の有効性について



8割の人が有効な手段と回答

### まとめ

- ◆チャット形式と通常の口頭形式の比較を行った。その結果、チャット形式では**ログが記録**されるため、発言者の内容が理解しやすい。
- ◆チャット形式では、文字が画面表示されるため相手の意見を確認してから**発言**できる。
- ◆声が小さい人でも、自由に文字で発言できる。
- ◆言葉のニュアンスや細かい感情の伝え方が課題

本研究の一部は、平成19年度科研費補助金（基盤研究（C）19500819）に基づき実施した、

問い合わせ先

日本工業大学 工学部 情報工学科 磯野春雄  
MAIL : [isono@nit.ac.jp](mailto:isono@nit.ac.jp)



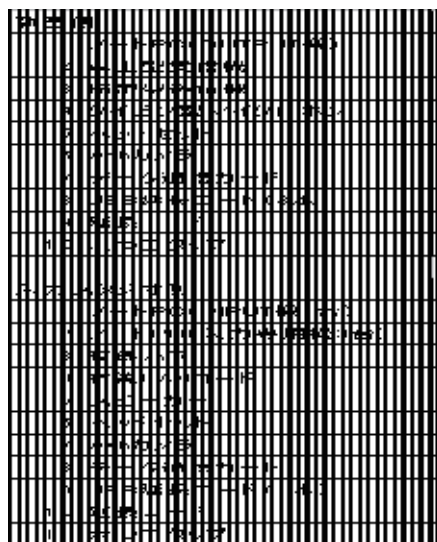
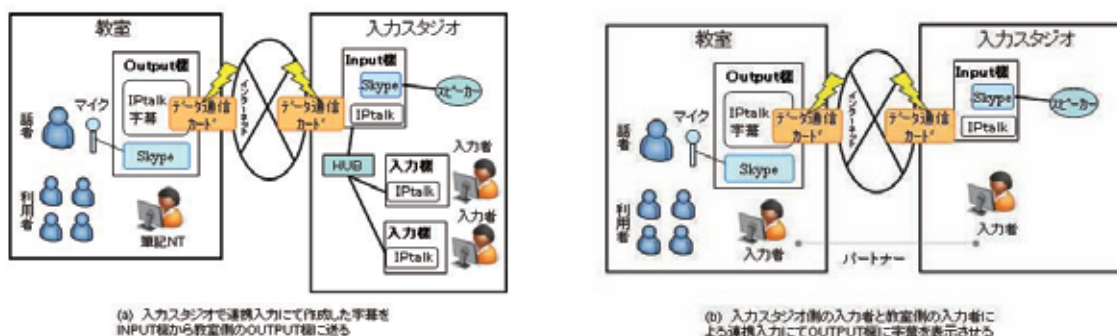
# 湘南工科大学

## データ通信カードによる遠隔情報保障システムの紹介

本学では、データ通信カードによる遠隔情報保障システムの開発に取り組んでいます。このシステムでは、パソコン通話の利用者と入力者の双方が同一空間になくとも情報保障を実現することができます。

今回の発表では、スカイプを介してA大学からB大学に講義の音声を送り、B大学で通話された文字情報をA大学に送り返す等の構成で行った情報保障の実践事例を紹介します。システムの特徴としては、インターネット環境さえ確保できれば入力者や利用者がどこにいても活用可能であること、接続設定が容易であること、スカイプのビデオチャット機能を使って講義前後のコミュニケーションを図ることができること等が挙げられます。

システム構成図 (a) (b)



### 今後の課題

- ・ 遠隔地においても入力者が現場の状況を把握することが容易なくみの創出（映像の送信、遠隔地間にある入力者同士の円滑な意思疎通手段の確保等）
- ・ ネットワークの不安定さの克服
- ・ テクニカルサポートの運用方法の確立
- ・ 入力者の派遣・コーディネートに関わる運用方法の確立

協力 日本遠隔コミュニケーション支援協会

### 問い合わせ先

湘南工科大学教育 GP 事務局 二階堂祐子 連絡先 〒251-8511 神奈川県藤沢市辻堂西海岸 1-1-25  
TEL/FAX 0466-30-0170  
Email gp2008@center.shonan-it.ac.jp

## 学生主体から大学との協働へ 日本社会事業大学 障がい学生支援組織CSSO

### <はじめに>

この報告における保障体制は2009年度前期までのものである。また、文中にあるプロジェクト支援室は2009年10月から日本学生支援機構の助成によって、プロのコーディネーターが大学に設置され、大学主体で聴覚障害学生支援が行われることになったものである。助成には期限もあり、終了後も大学と協働で継続した支援が行えるよう体制を作っていく必要がある。そこで、大学との協働を目的とした支援室チーム（2009年6月26日結成）の活動を中心に本報告をまとめた。

学生数

約900人

聴覚障害学生

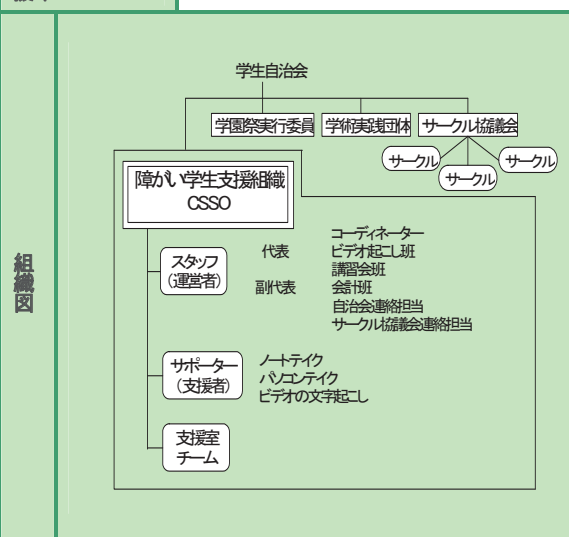
2人

運営スタッフ  
支援サポーター

26人  
100人

### 学生主体の講義保障体制

大学の特徴	1学部2学科・福祉の単科大学
運営主体	障がい学生支援組織CSSO
CSSO	障がいのある学生も障害のない学生と同じように、学生生活を送れるようにともに必要な支援を考え、提供する。 (2005年6月活動開始)
提供しているサービス	・ノートテイク ・パソコンテイク ・ビデオの文字起こし (車イス、視覚障がい学生にもニーズに対応した支援を検討していく)
謝礼金	1コマ/500円 (個人負担)
支援要請のあった講義の支援率	90%前後



### 大学と協働に向けて

#### 現在行っている活動

- ・支援室チーム（他大学支援室見学、フォーラム等参加）
- ・大学との話し合い（月1回）
- ・スタッフ業務のマニュアル化
- ・学生課とのプロ講習会の共同開催（年2回）
- ・プロジェクト支援室との協働体制模索

#### これからの課題

- ・障がい学生支援においてプロジェクト支援室とCSSOとの関わりを明確にしていく。
- ・障がい学生のスタッフ活動への参加を活かし、心のバリアフリーを進めていく。（志縁構築）
- ・安定し、継続した支援を行えるようマニュアル化、ルール統一など質の保持・向上に努める。
- ・プロジェクト支援室と日本社会事業大学全体のバリアフリー化を目指す。



障がい学生支援組織CSSO  
(Challenged Students Support Organization)  
〒204-8555  
東京都清瀬市竹丘3丁目1番30号

## フェリス女学院大学・バリアフリー推進室

### ☆ノートテイク講習会

#### 【学生講師】

- ・ タイミング、ニーズが掴みやすい。
- ・ 対応がしやすい、されやすい。
- ・ 教える立場に立つことで、自らの成長にもつながる。

→peer education & support.

#### 【外部講師】

- ・ 学生講師では補いきれない専門知識やマナーを学べる。
- ・ テイクのスタイルや、障害への見方。
- ・ peer education & supportの強化。より厚く強い体制に。

### ☆新入生オリエンテーション

学内の皆に興味を持ってもらうのはもちろん、別世界体験（日頃の生活をいつもと違う視点で体験する）など、単なる宣伝に終わらない工夫をした。サポートなどの取り組みが、「特別」ではなく、日常的な光景になるための、きっかけづくり。サポーターの募集とともに、バリアフリーの浸透を目的とする。

### ☆手話

授業でのサポートだけでなく、コミュニケーションの手段としての手話を、もっと広めたいという声から、企画し実施。手話講座を開くことによって、スキルアップと同時に、手話に興味を持った人が、サポートにかかわるきっかけとなる。

### ☆スクリーン

キリスト教講演会や卒業式など人が多く集まる場で、スクリーンを用いた情報保障をすることで、活動する場を設けること、活動を知ってもらう機会をつくる。

### ☆セクション

2009年度の推進室は、スタッフの中でも中心になって皆を動かすコアスタッフを設け、更にスタッフの育成を特に受け持つセクションを作った。スタッフ育成セクションが存在することで、常に学生自身が日ごろの活動においての課題や問題点やニーズを意識でき、発見できる。そしてセクションを中心に動き、形にしていく。

### ☆マニュアル

自分たちのニーズに合ったものを自分たちで作成。学生ならではの有用性のあるつくりをしている。

### ☆データ

コーディネートしやすくするために、スタッフの情報（レベル、サポート経験、履修科目など）を管理し、それとあわせて授業データ（講義形態、教室環境、教室の特徴と利用学生のニーズなど）も作成し、よりよいマッチングを可能にしている。これを学生が作ることで、学生コーディネーターの育成にもつながる。

## All for All

1人が誰かのために、誰かが1人のためにではなく、それぞれの人が感じるバリアをとるために、皆で活躍をする。

押し付けてやらされているのではなく、自分たちが必要だと思って動く！日ごろの活動や周りの様子を見て、自分たちで課題やニーズを見つけ、それを解決したり、実現するために動き、自分たちで形にする。

私達の取り組みは、学生主体、学生目標を基本に行われています。

#### 問い合わせ先

フェリス女学院大学バリアフリー推進室

コーディネーター 後藤吉彦 TEL 045-812-8315 / E-mail goto@ferris.ac.jp



## フェリス女学院大学・バリアフリー推進室

### 講演会・ワークショップ

一連のイベントをするにあたって、一番基礎となる、バリアフリーとは何か、や、障がいとは何かを考える必要があるという声が学生からあがり、企画している。



### 大学祭

フェリスから社会へ ALL for ALL を拡大する機会。福祉体験会、活動展示・スタンプラリーなど。

### MTG

学生発信の企画が生まれる場所。週1回皆が集まって素直な意見をぶつけ合える大事な時間。

### All for All

1人が誰かのために、誰かが1人のためにではなく、それぞれの人が感じるバリアをとるために、皆で活躍をする。

私達は ALL for ALL の考えのもと、

以下の4つの目的をもってイベントや企画を行っています。

#### 目的①

パリスタ(バリアフリー推進室スタッフ)以外の学生にも、バリアフリーは特別なことではないということを知ってもらうため。

#### 目的②

パリスタ全員が活動に参加しやすくするためのきっかけの場を作るため。

#### 目的③

皆で1つのものを作ることで  
チーム・パリスタの絆を深めるため。

#### 目的④

利用学生(障害学生)のニーズを、  
同じ学生という立場である  
支援学生が引き出すため。

### 他大との交流

相手に自分達の活動を伝え、自分達の活動を見直す。また、相手の良い所を吸収し、新たな視点を知ることによって自分達の活動の発展につなげる。

### まとめの会

学期の振り返りをする事で、皆が同じ情報を共有する。色んなことを気づけるきっかけを提供するための交流企画。スタッフのモチベーションの維持・向上。

### マップ・点字テプラ(キャンパスを点字で埋め尽くせ！プロジェクト)

一つのを一緒につくすることで、交流を深めるバリアフリーを知ってもらえると同時に自分達の理解を深められる。音声情報以外でも、情報が得られるようになる。

### オリエンテーション

バリアフリーを知ってもらうために、体験者の声や、障がいだけではなく身近なバリア(怪我や病気など)の紹介をするだけではなく、別世界体験をすることで参加型のオリエンテーションに。



#### 問い合わせ先

フェリス女学院大学バリアフリー推進室

コーディネーター 後藤吉彦 TEL 045-812-8315 / E-mail goto@ferris.ac.jp

## 情報保障者支援 ～情報保障者支援システムの活用～

2009年度、本学には2名の聴覚障がい学生が在籍しており、学外派遣による手話通訳と、「情報保障支援学生団体 てくてく」によるパソコンノートテイクおよびノートテイクを中心に情報保障活動を行っている。「てくてく」の活動においては、情報保障者支援システムを利用して、円滑な連絡をサポートし、各種情報を一元管理することでコーディネーターの負担を軽減している。また、パソコンノートテイク練習サイトを現在構築しており、Webサイト上でパソコンノートテイクの練習を行うことで、情報保障の質の向上を目指している。

### 情報保障者支援システム

このシステムは、数年前から利用している「出欠連絡ツール」を拡張したシステムで、支援者・聴覚障がい学生は、出欠情報だけでなく、授業関連の共有すべき情報などを管理サーバに携帯端末からアクセスする事で登録を行い、情報保障活動をサポートしている。

#### 出欠連絡ツール

##### ・聴覚障がい学生欠席連絡・休講連絡

聴覚障がい学生が講義を欠席する場合や、講義が休講になった場合、欠席・休講連絡を行うと、関係する支援者、コーディネーターにメールが配信される。

##### ・支援者欠席連絡・代理募集

支援者が何らかの理由で出席できなくなってしまう場合、欠席連絡を行うと自動的にその講義の関係者（聴覚障がい学生・支援者のパートナー）およびコーディネーターにその旨の連絡のメールが配信されると同時に、交代を募集するメールが全支援者に配信される。

#### 新機能

##### ・支援者シフト調整支援

支援者は個人ページにおいて、担当可能時間や保障スキル等の支援情報を登録する。また、上記ツールにて各支援者ごとの経験量や誰とパートナーを組んだことがあるかなどを蓄積しており、これらの情報を併せて、最適な支援者の配置をアシストし、コーディネーターの負担を軽減している。

##### ・関係者間連絡支援

支援者が担当する講義の関係者（聴覚障がい学生・支援者のパートナー）に連絡をしたい場合、連絡を行いたい講義を選択し、メッセージを入力すると、そのメッセージが関係者にメール配信される。これにより、個人のメールアドレスを公開することなく連絡を取ることができる。

##### ・情報保障記録の蓄積

毎回の講義ごとにそこでの情報保障支援の記録や、講義担当教員などへの要望を入力できるページを設けている。ここに入力した内容は、コーディネーターおよび支援者が閲覧可能となっており、支援者間の引き継ぎなどに役立っている。

情報保障者支援システム  
 ～ノートテイク～

◇情報保障連絡システム◇  
 ◇TOP◇ 出欠報告 ◇

← 前へ 次へ →

▼日時:  
09年 09月 10日 (水)

▼時間:  
1限

▼授業名:  
L 人文科学入門

▼教室:  
第一共通棟103

▼受講者:  
田中 太郎

▼パートナー:  
山田 花子

出席

1.欠席連絡  
2.欠席連絡  
→ 担当する講義の受講者・パートナーにメールを送る  
3.欠席連絡  
→ 支援情報の参照・変更  
講義情報の参照・変更等  
4.欠席連絡  
→ 欠席報告に戻る

出席報告ページ

情報保障者支援システム  
 ～ノートテイク～

◇情報保障連絡システム◇  
 ◇支援情報◇

▼支援可能方法:  
PCテイク・手書きノートテイク

▼支援可能時間:  
月 火 水 木 金  
1 ○ △ × ○ ○  
2 ○ × △ × ○  
3 × × △ ○ ○  
4 ○ × △ ○ ○

▼コメント:  
教育実習のため、10月中は担当出来ません。

▼スキル情報:  
タッチタイプ: 自信あり  
タイピング速度: 130字/分

担当可能時間変更  
その他情報変更

introへ 出欠報告に戻る

個人ページ

### パソコンノートテイク練習サイト

パソコンタイカーの養成（特に、新規登録者の養成用）の為にWebサイトを現在構築している。いままでは、支援者が集まって練習を行ってきたが、登録している支援者が70名を超えた事もあり、個人個人の練習の必要性が高まってきた。そこで、次のようなツールを中心とした練習サイトの構築を現在行っている。

##### ・連携入力疑似体験ツール

初めてパソコンノートテイクを行う際に最も戸惑うのが連携入力である。そこで、実際に連携して入力した記録を一方のみ再現することで、疑似的に連携入力の体験ができるようにする。これにより、事前にイメージをつかみ、戸惑いなく連携入力を行うことができることを期待している。

### 課題

更に汎用性を持たせるための各種設定項目の検討や、フレームワークを利用した再構築を行っていきたい。

#### 問い合わせ先

愛知教育大学 情報保障支援学生団体「てくてく」 連絡先(e-mail: tekuteku@t.ics.aichi-edu.ac.jp)

##### ・音声タイピング練習ツール

通常タイピングの練習には、用意した原稿を見ながら入力するという方法が一般的である。しかし、情報保障を経験した支援者からは、「音声を聞きながら入力するのは、原稿を見ながら入力するのとは全く異なり、慣れるのが大変だった」という声が聞かれた。そこで、速度の異なる音声ファイルを用意し、音声を聞きながらタイピングの練習を行うことができるようにする。



# 愛知教育大学

## 情報保障支援学生団体「てくてく」による 学外機関の支援活動

(教員)岩田吉生・高橋岳之、情報保障学生団体「てくてく」(学生代表)竹本英典・学生一同。

### ○情報保障学生団体「てくてく」の活動

現在、愛知教育大学の聴覚障がい学生の情報保障支援活動は、PC ノートテイク、ノートテイク、手話通訳によって行われているが、その大部分は情報保障団体「てくてく」の学生たちが役割を担っている。PEPNet-Japan の東海地区の連携大学である本学は、地域の他機関より聴覚障がい学生支援に関する研修会等を求められることがあるが、その際には、障害学生支援に携わる教員とともに、「てくてく」所属の学生たちと出かけている。研修会等に、学生たちが講師として参加したり、PC ノートテイクのデモを提示したり、他機関の教職員や学生たちと交流する中で、聴覚障がい学生支援に対する学生の意識が高まり、本学の活動の発展に繋がっている。また、学生の中には聴覚障がい学生2名も所属し、この「てくてく」の活動に積極的に参加する中で、他機関の現状を理解した上で、本学の活動を客観的に評価したり、今後の活動を見直す視点を得ていること等が述べられ、当事者の学生のエンパワメントを向上させる貴重な機会となっている。

### ○「てくてく」の学内活動

#### (1) 構成員:愛知教育大学・学部生・71名

支援登録学年: 1年23名、2年11名、  
3年20名、4年17名

→ 聴覚障がい学生: 2名(1年1名、3年1名)

→ 実働スタッフ: 1年16名、2年6名  
3年14名、4年11名

#### (2) 活動実績: 週22コマ(支援の併用有)

→ PC ノートテイク21コマ、ノートテイク1コマ  
(この他、学外より手話通訳者派遣)

#### (3) その他: 週2日・昼休みに連絡会開催。

他に、障害児教育講座と情報教育講座の教員、教務課職員とともに、「支援学生の募集」「情報保障説明会」「理解・啓発リーフレットの作成」「教員対象の支援マニュアルの作成」「PC ノートテイク研修会」等を開催している。

### ○「てくてく」の学外機関の支援活動

#### (1) 愛知淑徳大学

##### ー情報保障学生交流会(H20.12.10.)

<内容>・IPtalk の概要(本学教員)

・愛知教育大学での現状(本学教員)

・聴覚障がい学生の報告(本学学生)

・IPtalk の説明とデモ(本学学生)

・学生と教職員の交流



#### (2) 中京女子大学

##### ー情報保障研修会(H21.4.6.)

<内容>・愛知教育大学での現状(本学教員)

・聴覚障がい学生の報告(本学学生)

・IPtalk の説明とデモ(本学学生)

#### (3) 東海地区聴覚障がい学生高等教育支援

##### 連絡会ー運営委員スタッフ(H21.6.14.)

<内容>・運営委員に「てくてく」代表学生が参加した。

・連絡会当日のPC ノートテイク担当 等

#### (4) 愛知県立岡崎聾学校高等部

##### ー大学の情報保障説明会(H21.8.24.)

<内容>・大学の情報保障の概要(本学学生)

・聴覚障がい学生の報告(本学学生)

・IPtalk の説明とデモ(本学学生)

・聾学校生徒と学生との交流

### 問い合わせ先

愛知教育大学 障害児教育講座 岩田 吉生 ([yiwata@aeu.ac.jp](mailto:yiwata@aeu.ac.jp))

情報教育講座 高橋 岳之 ([take@aeu.ac.jp](mailto:take@aeu.ac.jp))

「情報保障支援学生団体てくてく」代表 ([tekuteku@t.ics.aichi-edu.ac.jp](mailto:tekuteku@t.ics.aichi-edu.ac.jp))



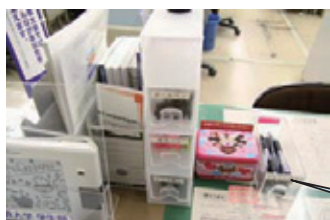
# 佛教大学

佛教大学では、学生課事務所内のわずかなスペースに障がい学生修学支援専用の窓口を設置しています。  
現在、利用学生 6 名に対し、支援学生 65 名が支援活動をおこなっています！！

ノートテイク  
受付カウンター



支援学生別の棚を設け、テイクファイルや資料などを保存しています。  
また、名札には、支援報酬に関する印  
●税率適用あり ●税率適用なし や名札を  
逆にして、現在支援活動休止であるなど円  
滑な運営・管理ができるようにしています。



佛大オリジナル  
テイクファイル



ペン類（ゲルインクペン、サインペン、蛍光ペン等）や  
付箋等は必要に応じ、各自が持ち出しできるようにし  
ています。ときには、お菓子などを入れておいてお楽  
しみBOXとしていますv(^)v

## 【テイクファイルの中身】

- ・ 佛教大学 ゆび文字表
- ・ 名札ストラップ
- ・ ルーズリーフ
- ・ ペン
- ・ ノートテイク養成講座テキスト  
（日本学生支援機構 近畿支部京都事務所発行）
- ・ アルバイト時間精算書

より良い支援活動となるよう日々改善し、楽しみながら学びの保障をおこなっています。

## 問い合わせ先



佛教大学 学生部学生課

TEL : 075-491-2141 (代表) FAX : 075-493-9044  
e-mail sss@bukkyo-u.ac.jp

# 愛媛大学 CBP・バリアフリー推進室



## 問い合わせ先

愛媛大学 教育学生支援部 バリアフリー推進室：太田琢磨・村上沙耶佳

Tel：089-927-8114 FAX：089-927-9171 E-mail：bfree@stu.ehime-u.ac.jp



## PR・啓発グッズ部門 応募団体紹介

### フェリス学院大学 バリアフリー推進室

- ◇手話講座オリジナルテキスト
- ◇ノートテイク講習オリジナルテキスト
- ◇活動紹介ポスター
- ◇スタッフジャンパー 等

＜問い合わせ先＞バリアフリー推進室  
goto@ferris.ac.jp

### 千葉大学 ノートテイク会

- ◇ノートテイクの手引き
- ◇学生募集ポスター
- ◇学生募集看板
- ◇オリジナルTシャツ 等

＜問い合わせ先＞ノートテイク会  
info@ntkai.skr.jp

### 札幌学院大学 電子計算機センター

- ◇字幕挿入マニュアル

＜問い合わせ先＞サポートデスク  
matumor@ims.sgu.ac.jp

### 札幌学院大学 バリアフリー委員会

- ◇パソコンテイクー養成テキスト

＜問い合わせ先＞バリアフリー委員会  
sgu\_bfc@sgu.ac.jp

### 早稲田大学 障がい学生支援室

- ◇障がい学生支援室紹介リーフレット
- ◇支援マニュアル【支援者用】
- ◇サービス利用マニュアル  
～聴覚障がい学生用～
- ◇学生向け啓発パンフレット  
「してもらいたいことまとめました」
- ◇IPtalkを利用したパソコンテイク・  
パソコン通訳（ノートテイク既習者用）
- ◇ノートテイク講座テキスト（事前学習用）
- ◇ノートテイク講座パワーポイント資料
- ◇教員ガイド
- ◇教員ガイド（英語版）

＜問い合わせ先＞  
障がい学生支援室 shienshitsu@list.waseda.jp



## 第 5 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

発行日：2009 年 11 月 3 日

発 行：第 5 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム実行委員会

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）事務局  
〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15  
筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

※本事業は、文部科学省特別教育研究経費による  
拠点形成プロジェクト（筑波技術大学）の活動の一部です。



## 第 5 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

発行日：2009 年 11 月 3 日

発 行：第 5 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム実行委員会

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）事務局  
〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15  
筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

※本事業は、文部科学省特別教育研究経費による  
拠点形成プロジェクト（筑波技術大学）の活動の一部です。



